

# からぼり川

第11号

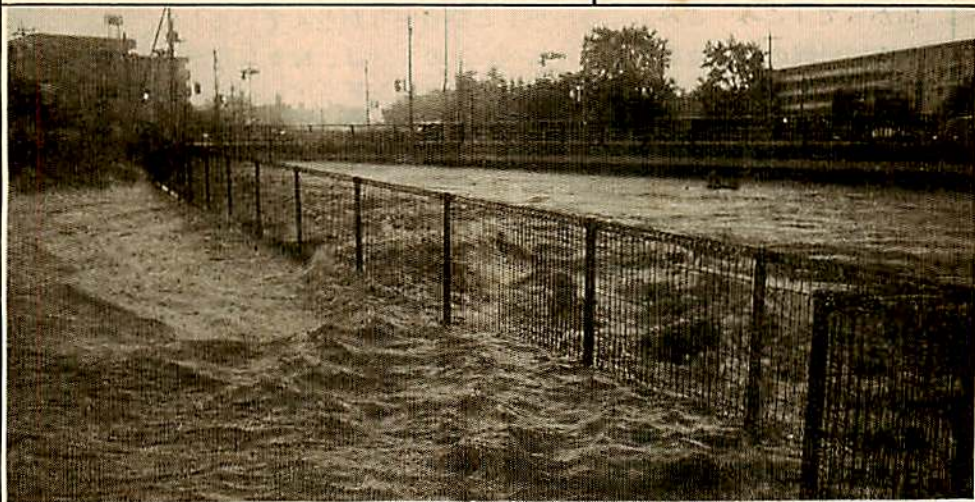
空堀川に清流を取り戻す会

がたろう通信

発行 東村山市美住町 1-13-14

者 小林寛治 042-391-4003

発行日：1998年9月9日



## 早期に新河道への

接続を！

東村山市内浄水橋を中心とした東大和市境から野口橋にいたる地域は、空堀川の唯一の危険箇所

に挙げられています。

この付近の河川工事は大部分は完成しております。けれどこの度の台風4号に起因した大雨によって未改修部分の河道は飽和状態になり、ついにはあちこちで溢水してしまいました。この場所には調整池がありますが、ここも満杯になり、溜まった水がボトルネックのようになっていた未改修の細い河道に流れ込んだのです。既に許容限度を越えた状態になってしまったのです。(写真は二十八日朝七時前後の状況)

このような状態を繰り返さないためにも早急に新河道を整備して接続して欲しいと思います。浄水橋下はあと数メートル、府中街道の整備も急ぐべきです。

来年の三月には完成されるそうですが、それまで大きな台風が来ないように祈るばかりです。



## 「G O M I」 正路 妙子

その絵本を見つけたのはオーストラリア、ブリスベーンの店頭でした。山積みになされた値引き本の中から、まるで呼びかけているようでした。表紙の真中に、表題が「G O M I」と大きく書かれ、両側には、上から下に向かって「ごみ ごみ ごみ……」とひらがなが並んでいました。

南回帰線の南に位置するブリスベーンの8月は、様々な花が咲き始める時期で、アカシア、キョウチクトウ、ブーゲンビリア、ハイビスカスなどの樹木や日本では見られない花々があちこちに咲いていました。そんな植物の名前、生態を調べようと立ち寄った書店で、日本語の「G O M I」が私を現実に引き戻したのです。

父親が日本の学校で教えることになって、ジュニーは両親と東京にやってきます。人が多く、住まいが狭いことにまず驚きます。やがて町の中に捨てられているテレビや冷蔵庫がちょっと修理すれば使えるものであることに気付き、「G O M I」を見つけることに楽しみを見だしていきました。しかし、あるとき持ち帰った竹製の椅子は、年寄り夫婦が毎日座って道行く人々を眺めるためのものでした。そこで、これを返しに行き、家族がほっとして家路に就く、そんな内容でした。

「日本人は新しい物を買うことが好きで、古い物は捨ててしまうんだ」これはジュニーの父親の言葉です。確かに、一定の期間をおいて畳や障子などを新しい物と取り替えるように、私達には新しい物を有難がる傾向があります。身の回りにある物は、修理を前提にしていけないものばかりで、手にした途端にゴミと化してしまう物も沢山あります。古い家屋や家具を修理して使い、古い物にほどより価値を見いだす英国流の生活が、現在日本で盛んに紹介されています。しかし、このような生活習慣は日本には根付かず、一時的な流行として終わるような気がしてなりません。

英国に限らず、ヨーロッパでは古い物が大切に使われています。私たちがゴミ問題の先進国とみなしているドイツでは、物を大切に扱い、捨てないで再利用することを原則にしています。こうした精神は家庭生活はもとより、学校や社会のなかで大人が常日頃子供に厳しくしつけていきます。例えば学校で使う教科書は、生徒が学校から一年間借り受けるもので、進級する際には返却しなくてはなりません。その場合、借出者は自分の名前を裏表紙に記入します。一つの教科書は5～6年間使用されるために、6人の名前が記入された段階で教科書は役目を終えます。こういうことを通して、学校側は生徒に物の大切さと、簡単に捨ててはいけないことを教え込んでいくのです。産業レベルでもこうした精神は発揮されていて、自動車もリサイクルを前提とした設計がなされており、BMWの新型車ではリサイクル率が重量比で85%に達しているとのことでした。

参考文献：加藤雅彦他「現代のドイツ」大修館書店



## 空堀川浴いの石仏

田 中 開

東村山の住民になって最初に気がついたことは、久米川辻、九道の辻、恩多辻と道を通して古くから政治、軍事、物流の要所であったことだが、河川については野火止用水の資料があっても空堀川については僅少で、縁あって「空堀川に清流を取り戻す会」に入り歴史調査グループの仲間入りをした。今度は何故、空堀川なのか、天王橋、御成橋、達磨坂橋、馬頭橋と興味もたれた。“狭山の葉”によれば「此川水源ありて末に水なし、故に里俗カラホリと呼ぶ」とある。

空堀川は武蔵村山市の山麓が水源で東大和市の奈良橋川と合流し東村山市内を蛇行して清瀬で柳瀬川と合流している。空堀川は砂と火山灰が混合した武蔵野礫層のため河川工事以前は水が濁れ梅雨時や夕立や暴風雨の時は濁流押し流れ、砂の川が一転して暴れ川となる。目下工事中の栄町陸橋（久米川橋）で大きく曲がり市内を蛇行するうえ標高は栄町陸橋で約73mなかよし橋で約66m等勾配もあり、これらの諸条件が重なって氾濫する。

こんなことで空堀川には古くより石橋供養塔五基、庚申塔一基、観世音五基（馬頭四、子育一）灯籠一基、巡拝塔二基があり、それぞれに伝承や民話があるが紙面が許さず主なものに要約すれば、石橋供養塔は一般的に土橋から石橋に架け替える時の犠牲者への供養が多いが、新空堀橋・青葉町側の塔は「東村山の石仏と信仰」（小林太郎著）によれば明和9年（1772年）造立で銘文の中に「維橋之石不流不壊云々、」とあり古くより洪水流出防止の願いと努力が伺える。同じく道路をへだてて久米川側には庚申塔（青面金剛）があり、小生が訪れた時、きれいに清掃して供花されているご婦人があり挨拶しますと、志村けんさんのお母さんで、神様だから大事にしていますとの事でした。

神様と言えはすぐに上流の野行前橋の久米川一丁目角に馬頭観世音と灯籠があり竿石の各面に熊野大権現、椿名大権現、秋葉大権現、石尊大権現と四つの神社名が刻されており、神社と土地の信仰（代参講）が伺える。このすぐ上流に達磨坂橋があるが坂上の四辻に子育観音があり、馬方さんが草むらから拾って祀ったもので、母親に抱かれた子供が達磨を持った観音様で、七転八起の逞しい子を願う親がお参りして達磨を奉納すると風に吹かれて坂下まで転がり止まったと言う。当市の空堀川上流は浄水場西門近くの馬頭橋で、この脇に石橋供養塔と馬頭観音があり、下流に近い曙橋には石橋供養塔と巡拝塔がある。さて八坂神社は伝承によれば前身が武蔵野天王社といわれ武蔵国府の水を司る北方守護神を祀る社であったが江戸中期に天王森（久米川三丁目）へ移転しており天王橋があるのもうなずかれる。達磨坂橋の隣が御成橋で將軍徳川吉宗などこの橋を渡って鷹狩りをしたため御成橋と鷹の道の名がある。（参考文献：図説東村山市史、狭山の葉、東村山の石仏と信仰、あまから民族史。）



## 水道水の上手な飲み方

暑い日の続く夏場になると水道の使用量が多くなります。最近「水道の水がプール臭いと子供が言っている」「朝一番の水がニガイような気がする」また「水道水は安全なのかしら?」「浄水器を使った方がいよのでは?」等の問い合わせがありました。私は「プール臭いのは浄水場から各市に供給する時に雑菌が繁殖しないように投入している塩素のせいであり、常に新しい水が供給されている証拠でもある。だから心配しなくてもよいのではないかと言いました。

「ニガイ水」については、東京都東村山浄水場技術課に問い合わせたところ、個人の味覚に差があるかもしれないが原因は良く分からない。給水管の中に滞留して管の中の成分が溶けだしたことも、赤水等が出ることもあるが……との話でした。水道水の中の塩素分については一度沸騰させれば塩素は抜ける、これを冷蔵庫で冷やして飲めば塩素の入っていない美味しい水が飲めるはず、との話でした。

水道水の中には、雑菌が繁殖しないように末端の家庭で使われる水にも0.1ppm (1ppmは100万分の1)になるように塩素を入れています。したがって浄水場に近い地域の家庭の塩素濃度はこれ以上が入っています。浄水器については浄水場では安全な水を供給しているという立場からその使用を勧めているところはありません。それは浄水器を永く使うことによって雑菌が繁殖してしまう恐れがあるからです。余程価格の高いものか、メンテナンスを十分に行わないと安心して使うことが出来ないという弱点もあるからです。また、浄水器には水を不味くする成分、つまり残留塩素・有機物・臭気等を取ることは出来るが美味しくする成分を付加することが出来るという器械は何処にもないということでもあります。

美味しい水には三つの要素があります。ミネラルが適当に入っていること、炭酸ガスが少し入っていること、水温が10~15℃程度であることです。ですからこのような条件が整っていれば美味しい水といえるのではないのでしょうか。カルシウムやマグネシウムが多量に含まれている水は硬水と呼び外国旅行で下痢をしたりするのはこのような硬度の高い水を飲むからです。一方、硬度の高い水を飲んでいる地域の人は長寿者が多いという人もいます。(文責 小林 寛治)



## 「空堀川の歴史調査」に参加して

今井貞一

「空堀川に清流を取り戻す会」として東京都環境保全局に平成8年10月28日に登録として以来満2年を迎えようとしています。

当初数名の仲間が集いあって発足したものが現在約70名近くの同志が賛同して空堀川クリーンアップを3回、文化祭への参加等活発な活動によって先般、日本財団から河川調査に係わる機器の購入資金として協力援助金を受領する事が出来ました。

地域の民間ボランティアとしては画期的なことと、会員一同会の存在が社会的に認められたと喜んでおります。

現在、「空堀川」について殆ど分かっていない歴史的由来について調査活動を継続しています。未だ明確な文献もなく暗中摸索の状況であったが会員の岩切満盛氏の提言により「空堀川の歴史調査」と銘打ってその作成に取り組み、基本方針として期限を特に設けないが楽しんでことにあたり、文献の調査は年内まとめ発表しようとの意気込みで発足しました。

当面、東村山中央図書館で「空堀川」にまつわる文献のコピーの收拾、現地調査・聞き取り調査に加えて、空白時代の地図の作成等の世話役として小林会長と岩切氏が当たり徐々に成果が膨らんでいます。

私は図書館での資料調査では東村山市を流れる空堀川周辺には4か所の馬頭観音があって、もう一步進めて馬頭観音自体の素材の“石”で中沢厚氏著「石にやどるもの」の読後感には深い感銘を受け、加えてふるさと歴史館では掛川係長の詳細にわたる絶妙の解説に東村山市のもつ縄文時代からのルーツを認知することが出来感動を覚え、今日まで知り得なかった素晴らしい知識を与えられるという付加価値もプラスされました。古希を過ぎて、尚人生の奥の深さといつまでも学びとる必要性を痛感すると共にこの会に参加した喜びをあらためて痛感する今日この頃であります。





「水環境保全計画」に私たちの要求の  
総てが取り入れられました。

前号(第10号)のインフォメーションで紹介いたしました、東京都の循環型都市造りの中で基本となる「水環境保全計画」の内容説明会が8月29日東京都環境学習センターで行われました。私たちは最初から些か係わつて来ました。当会からは小川、福島両氏と私(小林)の三名が参加し環境保全局水質保全全部の芳賀副参事以下4氏による環境基本計画に基づいた新たな水環境の創造、計画の詳細についての説明を受けました。この中では計画策定の考え方年次目標が具体的に示されています。その中の主なものは、「人と水環境とのかかわり合い、自然との共生、水質汚濁、水の流れを清らかにする、水辺の生き物と共にくらす、都民とのパートナーシップの形成」等がかかれており、川を水系別32水系に分け、この川の問題点、どの様な川にしていくのか具体的な施策の目標、生き物からの提言としてこのような川にして欲しいと言わせています。またこのような魚が住むようにするといった目標をかかげています。特に重要なことは私たちのフィールドである空堀川にも示されました。施策の目標に雨水浸透対策や多自然型護岸の設置、下水道の普及促進、堰・落差工を生き物の移動に配慮した構造にするように努める。旧河道の利用や護岸・河床を改善して瀬と淵の創造、生き物が生息しやすい環境の創造に努める。生き物と都民が触れ合う施設を整備するとともに動植物と親しめる水辺の拡大に努める。都民の自主的な環境保全活動を支援する。(原文)

私たちの考え総てが取り入れられました。空堀川はキット蘇ります。

## 空堀川のサカマキガイ

サカマキガイは河川の汚染度を見る指標生物となっています。空堀川を調査していつも感じていることですが、サカマキガイがどうして一番汚染されたところの指標生物なのでしょう。か? 「とても汚れた水の指標生物として」ミズミミズ、イトミミズ、サカマキガイ、ユスリカ類の四種の生物が指定されています。「次に汚れた水の生物」としてシマイシビル、ミズムシの二種が挙げられています。サカマキガイを飼育して、また川の中での観察をおして感じたことにいつもこれは違うと感じていました。

サカマキガイは水質が悪くなると死んでしまいます。特に水中の溶存酸素との関係は重要な要素です。シマイシビルは溶損酸素とはあまり関係がなくどんなに汚れた河川にも生息しています。サカマキガイが発生し増殖していく条件に適当な水の入替えがあり酸素が十分に供給されていること、15℃以上の水温と付着した藻類があることが繁殖の条件であるようです。

サカマキガイは殺虫剤やメトプレンのような合成ホルモン剤には特に弱く河川に散布されたと思われる翌日には大量に死骸が採取されます。これに比べてヒルは影響が殆どないように思われます。汚い場所の石裏には必ず発見出来ます。従って指標となる汚染度を計る生物には不適當ではないのか、と常に感じています。指標生物の指定に再度検討されることを望みます。

☆☆☆☆☆

オシドリが現れました。オシドリだから当然つがいです。今、流域の話になっています。場所は?



## 上水道 100 年を祝う

近代上水道・淀橋浄水場が出来て今年が 100 周年にあたるということで、東村山浄水場で盛大な催しがありました。「命の水」として安全で安心してそのまま飲める水が供給されているのは世界でも日本は数少ない国の一つです。



市報や町内回覧版でも知らされていましたが私たちにも案内があり会員にも呼びかけ多数が観覧いたしました。当日は不安定な天候にも関わらず沢山の市民が参加して祝いました、水の出来るまでのビデオの上映や模擬店・水遊び場での遊び、始めて屋上に上がって見た市内の風景、市職員の當麻氏のグループの演奏、アグネスチャンのミニコンサートと盛り沢山の内容でした。

私たち水環境に関心をもつ者にとって、これからも安心して飲める水の供給に努めて貰いたいと思います。

## 再びユスリカについて

トプロレノを流している(カンキョウホルモン)

ユスリカはキレイな水にも汚れた水にも生息している。

ユスリカの大発生する種はセスジユスリカである。

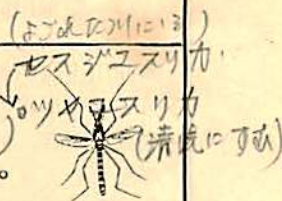
セスジユスリカの好む環境は水の淀んだ所、汚泥の溜っている所。

かつて、都市河川の多くが生活雑排水の集水路であったため発生。

ユスリカ類は人に刺したり血を吸ったりはしない。

赤ポーフラ、赤ムシといわれ鑑賞魚や魚つりの餌になっている。

「がたろう通信」第 8 号で空堀川の河川勾配は 1/200 と書きました。東大和市との境、富士見町上橋付近で標高 82.9m 清瀬市との境青葉町大沼田橋付近で 54.9m 実に 28m の標高差があります。5 階建のビルの高さに相当します。更に柳瀬川の合流点まで約 2050m で 16m の勾配があり 1/150 という事は改修された地域の方が平均勾配よりもきついのです。石の川底が生息環境にあるのでしょうか？ (小林 寛治)





## ◆これまでの経過◆

- ◎ 7月11日 がたろう定例会：中央公民館第4集会室。
- ◎ 7月13日 市民文化祭実行委員会。市民センター、神宮副会長出席
- ◎ 7月30日 「都政でまえ講座」生活と明日をつなぐ下水道にMXTVの参加要請を受けて録画撮りに参加 8月24日の週に放映される。当会よりの参加者10名。  
於：東京都都合下水処理場
- ◎ 8月5日 空堀川歴史調査部会：ふるさと歴史館 ビデオで東村山の自然、歴史、縄文時代を上映してもらう。
- ◎ 8月8日 がたろう定例会：中央公民館第4集会室。文化祭、歴史調査について話し合う。

## 進出激しい外来水草

—空堀川にもコカナダモが—

多摩川上流、御岳橋したの軍畑付近から下流の羽村取水堰あたりの多摩川上流部は現在、外来種の水草コカナタモが浸食してきています。奥多摩湖の表面水の放流に切り替わり水温が上がったせいか原因は分かりませんが、コイも相当上流部の深場で群れています。空堀川にも異変が起こっています。昨年まで見られなかったコカナダモが浄水橋の上下流で固まりとなった発生しています。いずれも人為的なものがあるように思われます。

記録的な雨量：下砂橋28/AM6-7時76mm  
27/AM1:30-31/6:40 315mm (北建調)  
27/AM9:00-30/9:00 300.6mm (浄水場調)  
28/AM5-6時 40mm (防災課調)

## 会員募集中

「空堀川に清流を取り戻す会」では会員を募集しています。現在、河川工事が進行中です。この改修に「多自然型川づくり」を私達は望んでいます。フェンスのない緩傾斜の自然な護岸、人が集まり憩うことの出来る水辺、沢山の魚が泳ぎ、釣りの楽しめる川づくりをめざしています。建設省も東京都も河川改修にあたっては前述のような河川環境を造っていくといっていますしかし、空堀川の改修の基本的な姿勢は治水にあります。工事のやり直しは出来ません。環境破壊の進んだ空堀川に「故郷の川」を造っていくにはまだまだ多くの人の力が必要です。良い環境は良い子を育みます。そして人の心をなごませてくれます。今が大切な機会なのです。どうぞよい川づくりの為に力を貸してください。主旨に賛同していただける方も賛助会員としてご協力下さい。会報を送ります。会報は隔月に発行しています。

皆さんの川に対する想いを投稿して下さい。お待ちしております。

## ◎会費は次の通りです。

個人会員（賛助会員とも）

年会費 2,000円

企業会員（団体会員）

年会費 10,000円

## ◎申込み先

東村山市美住町1-13-14

小林まで TEL/FAX 042-391-4003

## 会費振込先

口座番号No. 00130-3-729803



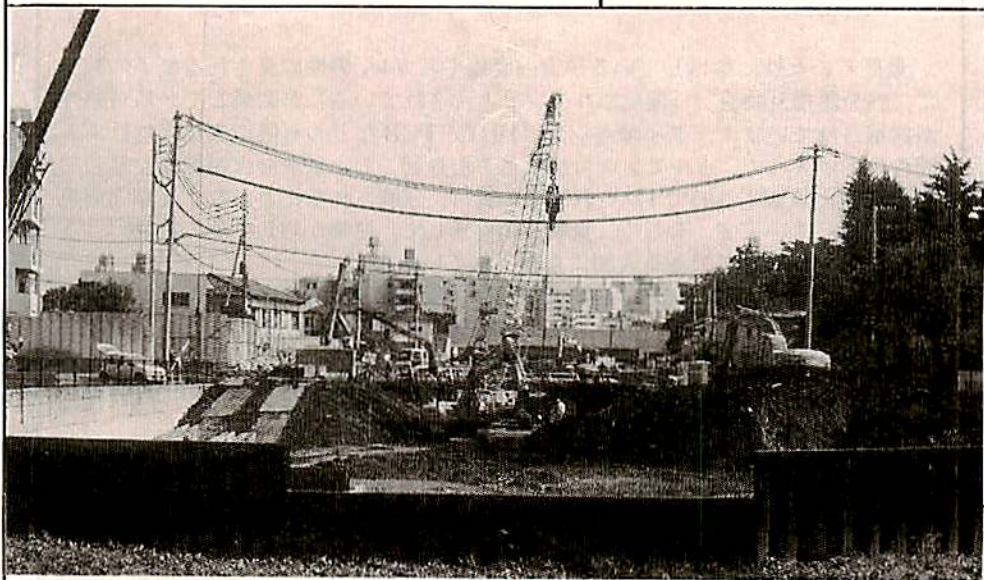
# からぼり川

第12号

空堀川に清流を取り戻す会

がたろう通信

発行者 東村山市美住町 1-13-14  
小林寛治 042-391-4003  
発行日：1998年11月1日



## 河川改修工事に

望む！

浄水場前の工事が始まりました。この場所は河道が右に屈折しており、左岸の水衝部は既に出来上がっています。緩衝部は十号で既報のように自然豊かな緩傾斜護岸になる予定です。

この場所にワンドを造り、周りを木の杭で囲み数個の飛び石を配置して水と親しめる環境の整備を望んでいます。

水が溜まり魚が安心して住める環境を整備することによって人が集まり文字通り「憩いの水辺」になることは疑う余地はありません。今、行われつつある工事に是非とも取り入れて頂きたいと思っています。それほどの費用が係るわけではありません。完成している部分を手直しすることを要求しているわけでもありません。現在行われつつある工事に些細なことを願うものです。この機会を逃してしまつたら実現は不可能になってしまいます。川が蘇るため、皆さんの応援をお願いします。





## 消費者の責任

正路 妙子

最近若い女性に急増している子宮内膜症や乳ガン、男性に見られる精子の減少に、内分泌攪乱物質（「環境ホルモン」と称されている）が関係している可能性が指摘されています。ダイオキシン、DDT、PCBなどの有機塩素化合物は、人間の体内に入って、ホルモンの分泌異常を引き起こし、正常な代謝機能を乱して、生殖機構を破壊するのです。これらの物質は、分解されることがなく長期間環境中に残留しています。そして、食物連鎖を通して、植物から魚や他の動物へ、さらに最上位の捕食者である人間に濃縮されていきます。

なかでも、ダイオキシンは他に例を見ない猛毒物質だといわれています。除草剤にも含まれていますが、その大部分（95%）はゴミを発生源とします。塩化プラスチック系のゴミを900度以下で焼却するとダイオキシンが合成され、これが煙とともに大気中に排出されるのだそうです。味噌や醤油など、食品に含まれる塩分も、ダイオキシンの塩素の供給源となっているそうです。

日本の大気には、1立方メートル当たり約1ピコ（1兆分の1）グラムのダイオキシンが含まれています。この値は、欧米工業国の10～数10倍です。

分別されていないゴミを焼却してきた歳月の長さ、各地で違法に焼却されている産業廃棄物などを考えると、ダイオキシンによる汚染はもう局所的なものではなく、わたしたちのすぐそばにある、逃げ出すことのできない問題であることは明らかです。この問題を解決するためには、生産や流通の構造を改めなくてはならないことは言うまでもありません。しかし、わたしたち消費者一人一人も、商品を購入する段階から、環境に負荷を与えるものは買わないようにして、ゴミそのものを減らすように努力する必要があります。

ゴミの減量化のために、欧米諸国や国内のいくつかの自治体では、資源化できるものを徹底的に消費者である住民に分別させた上で、残余のゴミをその量に応じて有料で回収し、極めて高い効果をあげています。つまり、汚染物質の発生者である消費者に手間と費用の負担を求めています。これにより、北海道のある都市では、それまでのゴミの最大排出量の37%を減らすことができたとのことです。スイスのベルン郊外の地方都市では、自治体指定のゴミ袋の値段をわざと高くすることによって、ゴミの大幅削減に成功しています。ドイツでは、ゴミ容器の大きさに応じて料金を徴収しています。フランクフルトの場合、80リットルの容器で週一回ゴミを出すと、年間1万7千円ほどになります。ちなみに、これらの国では、スーパーマーケットで買物をしても、袋の無料サービスはありません。

昨年の地球温暖化防止京都会議の直後、ある男性は、スーパーマーケットのレジの女性に「袋は要りません」と断って、買った物を持参した袋に入れました。「もうそんな時代ではありませんよね」と、私におっしやりながら.....



## 鷹の道、青葉町地域ほかの思い出

近藤 邦雄

「がたろう通信」11号で田中氏の文章の中に達磨坂橋・御成橋という名が掲載されていましたが、私の子供の頃の空堀川は、水溜まりがある程度の川であったかと思えます。七夕かざりを流しに行ったりした場所でもあります。

現在、久米川町2丁目地内・武蔵野西線の通っているところの畑へは度々出かけています。当時は、ちょっと長く雨が降ると水が出てしまう所でありました。通称“はげ”と言われる場所でした。サツマ芋を掘る前に水浸しになったら大変な所でした。

地名でいいますと下流側から「野行・野際・天王森・前野・砂の川」という小字があり、更にくぼ、はげ、といわれていました。橋の名前にもなっています。鷹の道も、草茫々でリヤカーがやっと通れる道でした。この道で芝草を使ってよく遊んでいました。この頃、御成橋は無かったかと思われます。道の両側は茶の木が続いてありました。

現在の東村山高校（S44年開校）の場所には鎮守の森「天王様」がいましたが現在「久米川町3丁目」の場所へ移転しています。

達磨坂は、もちろん砂利道でした、そして、記してある観音様「現在少し東側に移転しています。念仏講は春と秋の彼岸に行われています。」現、青葉町住宅街が畑・山林であったことは勿論であります。河畔や山林で山栗、しどめ、どどめをとって食べたこと、草花も多く「ナデシコ、ノカンゾウ、ホタルブクロ、ヤマユリ、ワレモコウ」などが沢山ありました。カヤ、チガヤの採取、冬場には、くずはきで利用していた現在の医療センター周辺に、小学校から帰るとお茶を届けながら祖父を迎えに行くことになります。ときどき、祖父の大八車を押すことがありましたが達磨坂はきつく勝負の場所になりました。

その後、東中に通学する頃は、現、本町4丁目・都営住宅は、一面の麦・スイカ畑でありました。建物は白デンパ数棟、現・美住町の公園のところには工場「新電元」がありました。

北側の空堀川沿いの小字は「前野・（野口分）（回田分）」ともいわれており、鷹の道を挟み更に前川まで、野、原、畑、で田園風景をなしていましたが、東京オリンピックを前に浄水場に変身してしまいました。：40年前にタイムスリップしてみました。



## 故郷の川

田中 開

「故郷の川」の命題をもらったが、父子ともにサラリーマンだった私は16都市町の転居の末ようやく当地に落ちついたため、一般に言う“故郷の川”には縁遠いが、行く先々に川の思い出があり、今振り返ると、まさに「川は友達」であった。

祖先は松山の砥部であるが、重信川は知らない、が定年後思わぬ川の友達をもたらした。というのは父は川原で奇怪な石を拾って置物にしていたが、重信川の只の石コロに「達磨」を描いたものをある日私にプレゼントしてくれた。今、私の趣味は水墨で達磨を描く外、多摩川や高麗川で石を探して創作達磨や郷土達磨を描いている。私の現役時代は子供のころを含めて、北から最上川、三面川、阿武隈川、円山川、園部川（保津川）、由良川添いに35年、荒川、夙川、旭川、那珂川添いに25年、定年後この空堀川に11年である。

（川は友達）やはり強烈な思い出は小学生時代の由良川である。川原にシャツやパンツを脱ぎ捨てて、黒い三角布のキンツリ？一つで飛び込み、泳ぎ、もぐり或いはハシャギ廻った楽しさは今のプールの子供たちにはわからないだろう。また川原のシャツの炎天干しは見事な景観？だった。

（散策の友）柳並木のつづく風情ある河畔には住めなかったが、夙川の桜、川添いに甲山へ、或いはスケッチブックを片手に海辺までの散策は懐かしい。洋々たる水をたたえた川は少ないが、蒜山に発し岡山平野から児島湾へ注ぐ旭川が目に見えよう。

（釣りの友）サケ漁で知られる三面川でのウグイ、コイの最上川、ハヤの由良川、アユの円山川とその清流、これまた楽しい一時代であった。

楽しいことばかりではない。川の恐怖は大洪水であり、空堀川に石橋供養塔が多いのもそれを物語っており、この台風4号では浄水場前がオーバーフローしたばかりである。当地には野火止用水、東村山浄水場があるなど生活に欠かせないのが水である。

古く寛政時代（約200年前）砂の窪悪水路と記録され、砂の川、カラッポ川と言われ続けて漸く昭和29年準用河川の指定を受け河川工事が始まり今も続いている。「安らぎがあり、清流の戻る空堀川」を夢みつつ敢えて「水五則」を紹介して本稿を閉じたい。

1. 自ら活動して他を動かしむるは水なり
1. 常に己の進路を求めて止まざるは水なり
1. 障害にあい、激しくその勢力を百倍し得るは水なり
1. 自ら潔うして他の汚れを洗い、清濁併せ容るるの量あるは水なり
1. 洋々として大洋を充たし、発しては蒸気となり、雲となり、雨となり、雪と変じ、霰と化し、凝っては玲瓏たる鏡となりしかもその性を失わざるは水なり



## 空堀川という名称はこの時から

空堀川という現在の名称は、明治29年に制定された河川法及び河川法準用令により河川法に規定した事項を準用すべき河川として昭和29年3月30日、東京都告示第261号で告示し認定をしています。区間は北多摩郡村山町南秋津大沼田地先空堀橋（現在の新空堀橋）から北多摩郡清瀬村中里宮下地先柳瀬川合流点までとなっています。更に同年12月28日、東京都告示第1152号において空堀川の区間を北多摩郡大和町大字奈良橋地先庚申橋から柳瀬川の合流点までと変更されました。この先、終点の北多摩郡村山町中藤までは昭和40年3月、空堀川が一級河川に指定されたのを契機に終点まで空堀川となったものです。

一級河川に指定される前は旧河川法の準用河川でした。

河川の始点と終点は下流の方から逆上って終点は源流近くになるようです。ですから空堀川の始点は柳瀬川の合流点で、終点は野山北公園下の中藤になっています。

なお、河川改修工事は東京の中小河川（東京都建設局河川部発行）によると、横田米軍宿舎の排水及び水道局村山浄水場の余水を放流するため、昭和32年から仮改修工事に着手し、昭和40年までに柳瀬川の合流点から東大和市内の庚申橋間の仮改修工事が実施した、とあります。



未改修の護岸



改修された区間

（注：調査にあたっては忙しいなか建設局河川部計画課土方さんにお大変お世話になりました。文章も殆どコピーさせて頂きました。）



## トリとめのない鳥の話し②

喜多見 孝 明

時ならぬ豪雨による大水が、夏という季節までおし流してしまい、多摩地域もすっかり秋の気配が感じられるようになりました。そして秋の訪れとともに、いよいよ空堀川も冬鳥のカモがやってくる時期を迎えました。

さて皆さん。冬鳥のカモたちを迎える準備は大丈夫でしょうか？ 家庭の雑排水や工場からの廃液などで川の水が汚れてはいないでしょうか？ 川岸で羽を休める場所が釣り人によって占領されてはいないでしょうか？ 野良ネコが川辺でお腹をすかしニャーニャーと泣いてはいないでしょうか？ 皆さんひとりひとりのチェック、宜しくお願いします。

というわけで、夏の思い出がすっかり整理し終わる9月の下旬ころ、まずは冬鳥のカモの先陣をきって「コガモ」という名の、日本で見られるカモの仲間が一番小型のカモが渡ってきます。

この時期になると、勤め先まで空堀川沿いの道を歩いて通っている私などいつ来るか、いつ来るか……と川面を目でなぞりながら首を横向きにして歩くようになります。（独り言ですが、このような時なのです、道にある犬のフンをふんづけてしまうのは、犬を散歩させている皆さん、お願いです！この時期だけは特にフンの後始末、しっかりやって下さいよ。）」

ちなみに、ハードウオチングの世界では、その時期、初めてその姿が確認された日のことを「初認日」と呼んでいます。私の記録によると、平成8年は9月25日（2羽）、平成9年は9月18日（1羽）、9月26日（3羽）となっています。もちろんこれは私が歩いている一区間のみのことなので、川の流れている地域によっては若干ずれはあるかと思えます。

いかがでしょうか、皆さんも身近な場所で記録を取ってみませんか…。年による初認日の違いにより、その年の季節の進み具合を推測したりすることも面白いかと思えますが、記録を取り続けることにより、きっと今以上に空堀川に興味関心をもつことが出来るようになるかと思えます。そして、ひいてはそれが“空堀川に清流を取り戻す”という方向につながっていくのではないかと思います……。

さて最後に、私の率直な気持ちを述べて締めさせていただきます。

「北の地、ユーラシア大陸から数千キロの距離を渡り渡ってやっとたどり着いた日本。そのまたあまたある河川や湖沼の中から、越冬地として選ばれた空堀川……。そう手前勝手に考えても、やはり私たちは背筋を伸ばして“お迎え”するのが礼儀のような気がします……。」

■コガモの行状





## インフォメーション

### ◆市民文化祭に参加◆

11月1～3日、東村山市中央公民館2階美術工芸室で空堀川と水に関する展示と実験を行います。沢山の方を誘って！

### ◆定例会の開催◆

11月14日(土) 10:00～12:00 中央公民館第4集会室です。翌日のクリーンアップについて最終の打合せをします。

### ◆第4回空堀川クリーンアップ◆

11月15日(日) 集合場所：下堀橋際・お祭り広場。時間10:00～12:00 豚汁、甘酒、飲物あり、多数の人の参加を歓迎。青葉町商店会・下堀自治会協賛。

### ◆川づくり市民連絡会・第1回フォーラム◆

11月18日、18:40～21:00 場所：飯田橋セントラルプラザ10F/会議室AB、資料代1000円  
川づくりへの市民参加の現状について事例紹介、多摩川・荒川・鶴見川・落合川他、建設省・東京都の取組について  
主催：川づくり市民連絡会。問い合わせは小林まで(042-391-4003)。

### ◆空堀川冬鳥の歓迎会◆

12月6日(日) 空堀川のカモの観察会を行います。カガ子・コガ子・ナガ子・マガ子・ヒドリ子等が見られます。

集合場所：JR新秋津駅前AM9:30分  
案内人：喜多見。会はオープンです。どなたでも参加歓迎します。参加者にはワイフ・ノートを差し上げます。

## 文化祭にお出掛け下さい

私たちは文化祭に水環境と空堀川というテーマで参加しています。見て下さい。

### ■展示の内容■

1. 毎日飲んでいる水道水の塩素濃度は…  
(持参して下さい。テストします。)

1. 水はどうして汚れるの…

1. きれいな水と汚れた水に住む生き物…

1. 都内の水辺で見られる水草の種類…

1. 空堀川の魚たち、こんな魚がいます。

(水槽3個で展示します。)

1. 空堀川のユスリカはこんな種類に変わってきました。

(幼虫と成虫の標本を展示します。できたら生きている物を展示し実体顕微鏡で皆さんに見て頂きます。)

1. 空堀川の魚以外の生き物… 何がいますか…

1. 私たちの地域の地下水はどうなっているの…

1. 現在行われている河川改修工事の平面図・断面図・現場写真等を展示します

1. 水質分析機、測定装置を展示します。

1. 身近な川の水を調べて見ましょう。水を持参して下さい。一緒に調べてみませんか…

なお、当日空堀川に関するアンケートに協力して頂いた人には粗品を差し上げます。宜しくお願い致します。

この展示に当たっては、東京都環境学習センター、東京都北多摩北部建設事務所、東京都環境科学研究所、東京都環境保全局、東京三菱銀行久米川支店のご協力を頂きました。



## ◆これまでの経過◆

- ◎ 8月26日 文化祭打合せ。中央公民館ロビー
- ◎ 9月3日 北・北建設事務所訪問 小林、山本
- ◎ 9月11日 空堀川歴史研究のため、東村山市史編纂委員 小山氏を訪ね空堀川を含めた昔の話を聞く 田中、小林。
- ◎ 9月26日 緑の市民会議 ふるさと歴史館 PM1:00～4:00
- ◎ 10月1日 水と緑の市民会議 市役所西庁舎 PM7:45～
- ◎ 10月2日 市民文化祭PR部会 市民センター第一会議室PM7:00～
- ◎ 10月9日 市民文化祭実行委員会 市民センター1,2 集会室 PM7:00
- ◎ 10月16日 青葉町商店会役員会に出席、空堀川の刈-アップに協力を要要請する。下堀自治会館PM8:00～
- ◎ 10月23日 柳瀬川流域懇談会 野塩会館 PM7:30～
- ◎ 10月24日 がたろう定例会 中央公民館第4集会室 AM10:00～12:00
- ◎ 10月28日 川づくり市民連絡会 多摩川センターPM7:00～9:00

※-----※

空堀川の歴史を調査していくうちに多くのことが分かってきました。上流では砂の川、中流域から下流では村山川と呼ばれ通常水の少ない川であったために通称名でカラポリと呼ばれ昭和29年正式に空堀川となりました。

上流の武蔵村山市では村山紬が盛んだった昭和一桁代の時は糸洗いが数カ所あったようです。

※-----※

## 会員募集中

「空堀川に清流を取り戻す会」では会員を募集しています。現在、河川工事が進行中です。この改修に「多自然型川づくり」を私達は望んでいます。フェンスのない緩傾斜の自然な護岸、人が集まり憩うことの出来る水辺、沢山の魚が泳ぎ、釣りの楽しめる川づくりをめざしています。建設省も東京都も河川改修にあたっては前述のような河川環境を造っていくといっています。しかし、空堀川の改修の基本的な姿勢は治水にあります。工事のやり直しは出来ません。環境破壊の進んだ空堀川に「故郷の川」を造っていくにはまだまだ多くの人の力が必要です。良い環境は良い子を育みます。そして人の心をなごませてくれます。今が大切な機会なのです。どうぞよい川づくりの為に力を貸してください。主旨に賛同していただける方も賛助会員としてご協力下さい。会報を送ります。会報は隔月に発行しています。

皆さんの川に対する想いを投稿して下さい。お待ちしております。

◎会費は次の通りです。

個人会員（賛助会員とも）

年会費 2,000円

企業会員（団体会員）

年会費 10,000円

◎申込み先

東村山市美住町1-13-14

小林まで TEL/FAX 042-391-4003

◎会費振込先

郵便振替口座 がたろう

口座番号No. 00130-3-729803



# からぼり川

第13号

空堀川に清流を取り戻す会

がたろう通信

発行者 東村山市美住町 1-13-14  
小林寛治 042-391-4003  
発行日：1999年1月12日



謹賀新年

今年もよろしくお願いたします

ご協力

有り難うございまして

去る十一月一〜三の三日間、東村山市中央公民館で行われた市民文化祭に、私たちは参加すると共に中国の大洪水の見舞いカンパを行いました。中国大使館より文化担当の一等書記官・頼育芳氏が、地域の文化活動の様子を是非見学したいということで見えられました。

会員の案内によって全館の展示を興味深く視察され、私どもの展示も一時間余りにわたってみられたあと歓談されました。中国では、市民が主体となって地域の環境問題の啓蒙活動を行っている所は未だないという話でした。行政が積極的に資料を提供して協力していることにも感銘されたようでした。

視察のあと、会員の田中開氏より、記念として雪の国宝・正福寺の前に座禅を組む達磨大師の水墨画をプレゼントされ、それに対し後日大使館からは田中氏に漢詩の書が届けられました。

なお三日間の水害カンパは六四三二円でした。大使館に届けました。ご協力に感謝します。



## 続・消費者の責任

正路 妙子

12月の初めに訪れた、海拔1200mの高原は、カラマツやクヌギ、ナラ、サクラがすっかり落葉して明るい静かな佇まいを見せていました。雑木林の中には都会の人びとの山荘が点在し、週末のために訪れた家族の姿も見えました。

その高原の村の小川のほとりには「農業用水であるから、勝手に使用してはならない」旨の注意書きが随所に見受けられました。観光地へ抜ける道路沿いには「空き缶を捨てないで！」と書かれた看板が立てられていました。ちりひとつ落ちていない駅にはゴミ箱は置かれていませんでした。それらの光景は開拓の村として始まったこの地の住民たちが、長い間かかって生み出した知恵の現れと見えました。またそこに至るまでの苦闘の歴史を窺わせるものでした。

地元の人のお話を聞く機会がありました。週末に山荘にやってきた人々は週明けに、山のようなゴミを車から集積場に投げ捨てて帰ってしまう。それらはあげくの果て、道路にはみ出して通行妨害となる。このような、ルールを守らない「新しい住民」に手を焼いた村が行ったことは、集積場の撤去でした。

不特定多数の人たちにルールを守らせることがいかに至難であるか、私たちは日々経験しています。ルールが守られるようにするにはどうしたらよいのでしょうか？不法に投棄されたゴミを自治体が処理することは、決して問題の解決にはならず、ルールを守っている住民の税負担を増すという不公平な事態を引き起こすだけです。ルールを守らない人が不利益を蒙るようなシステムを、私たちは知恵を出しあって考え直す必要があります。

コストが目に見えるようにすることは、現在最良の方法ではないかと考えられています。缶、ペットボトル、スーパーマーケットの袋を消費者は、まるで無料のように錯覚しています。しかし、例えば、アルミ缶一個の生産から廃棄に至るプロセスにおいて消費されるエネルギー、発生する二酸化炭素など、環境への負荷の大きさをコストとして計算すると膨大なものになるのです。

1. リサイクルされることなく環境に負荷を与えるだけのものは、その程度に応じて環境コストを価格に上乘せする。こうすることによって、消費者は処分する際に廃棄物にしかならないものの購入を控えるようになるでしょう。

2. リサイクル可能なものは、消費者の手に渡るときに、保証金、つまりデポジット料金を徴収する。これによって、リサイクルのプロセスに戻さなければならないことを消費者に認識させる。このとき、人間の心理を考えれば、デポジット料が高いほど返却率は高くなるはずですが、また、捨てられたものを回収する人の費やす時間と労働のコストを正当に評価することにもなります。

こうした措置をとるだけでも、大量のゴミや投げ捨てられる空き缶による高原の村の悩みは減るに違いありません。もちろん、日本全体で一斉に行うのであれば逆効果になってしまうでしょうが……



## BTCV との意見交換会開かれる

去る11月24日（日）日本財団ホールでBTCVとの意見交換会が行われました。BTCV（British Trust for Conservation Volunteers；英国自然保護ボランティア）は、1959年42名のボランティアで発足しましたが、現在では年間10万人の市民が参加する全国的な運動を展開しています。BTCV設立の目標は農業の機械化や都市化の進展によって失われつつあるイギリスの伝統的な里山・田園風景と其処に共生する野性動植物を保全・回復することで、活動は放置された雑木林の間伐や下草刈、田園での失われつつある生け垣や石垣の復元、溜め池や小川の維持管理など様々な活動を行っている団体です。

この度、日本財団から参加の呼びかけがあり、小林と正路さんの2人が参加しました。第一部ではBTCV国際部長であるアナ・フローサー氏のBTCVの日頃の活動と組織、資金等の説明がありました。

BTCVは行動的な団体であり、政府機関から支援を受けていること、山を持っている地主や国・自治体から有償で仕事を受けている。仕事の流れは政府機関からの情報によりBTCVはこれをこなしていく。

またBTCVには沢山の有給職員が主に企画部員として働いている。…等の話しが聞けました。

第二部では狭山丘陵で活躍している「トトロのふるさと財団」の永石氏の報告があり、第三部の懇親会では多くの人たちと親しく話し合うことが出来ました。



意見交換会で



トトロふるさと財団の永石氏と正路さん



## 流域に木を植える

11月7日(土)空堀川の管理用道路の樹木の枯れた場所に、補植しました。当日は今にも雨が降りそうな天気でした。思い思いに支度をして栗木橋に集まったのは男6名女性が2名の8名でした。植える木は東京都環境保全局自然保護部緑化推進室より配付を受けた55本の樹木でした。当会の緑の推進委員の有川さんのお宅で預かってもらっていたものでした。

空堀川流域の植栽は、市が東京都から委託を受けて管理しているため北多摩北部建設事務所管理課から市の緑と公園課に連絡を取ってもらい了解を得てからの植栽でした。空堀川の流域には緑が乏しく、特に管理用道路には低木はおろか殆どどころが舗装されているため樹木はありません。ミニ公園化した調整地には樹木はありますが、枯れたり引き抜かれたりしていても誰も気がつきません。

私たちが勝手に木を植え管理は市に任せるというやり方では行政も中々いい顔はしてくれないでしょう。今回のように枯れた所、いつの間にか樹木が無くなっている場所だったから植栽が出来たのです。

皆が流域を守っていく、木を大切に育てていく、こんな気持ちがあれば行政も喜んで協力してくれるはずですよ。これからは市民の手で管理する、このような気持ちを持っていきたいと願うものです。

私たちが毎年50本の木を植えていったら10年では500本の木が育ってきます。常に引き抜かれたり、枯れた場所の補植ではイタチゴッコで緑は増えていきません。



12月のある日、会員のSさんから電話がありました。川に犬の死骸が捨てられてあり、カラスがツツいて内臓を食べている。見るに耐えないので何処に連絡すればいいのか、という内容でした。北・北建の維持係に連絡してもらいました。直ぐに業者の方が処置してくれたそうです。犬を飼って死んだら川に捨てる、こんな人は飼う資格はありません。このような人を見つけたら警察に通報して下さい。犯罪です。



## 人と自然

福島 淑行

今、我々の会では空堀川の歴史調査を行なっているが、その活動の中で感じることは、人と川との長い歴史的関わりである。川はわれわれ人間の生活に絶対不可欠な水を運ぶという大きな仕事をして呉れているのだから、自然のなかでも最も人との関わりが深いものであると云える。

日本の歴史の始まりともいえる縄文時代は川を中心に自然と共生し、1万年も続いたと云われている。恐らくこの時代には人が自然と一体になって生活しているのです。このように長期の文化が続いたものと考えられるが、それだけに自然を崇拜したアニミズム信仰があったこともよく知られている。

特に日本人は西洋人と違って、自然との融合に喜びを感じる国民であると自負していたのだが、戦後の経済成長は残念ながらすっかりそれを忘れさせ、ただ自然を破壊し続けてしまった。人間の文明の発展は昔の「生ける自然」を「死せる自然」へと変えてしまったのである。

私どもの身近な河川はとくに人々の無計画な勝手な開発によって汚染し、人間が生きるために最も大切な水を「悪魔の水」に変えてしまった。我々の会はそのような川を「生ける川」に甦らせようとしているのです。

環境問題は日に日に我々の生活を脅かしてきております。母親の愛の結晶ともいえる母乳でさえ、ダイオキシンに侵されているのではないかという不安があり、また川に生息する魚たちにも雌化という異変が出てきている環境ホルモンの問題。これらのことはすべて人間が作りだしてきたものであるということをお忘れはならない。

前から人間は自然のなかの一員であるという意見と、いや人間は他の動物とは違い自然を支配するものであるという二つの意見があった。前者はダーウィンの進化論や唯物論から来たものと思われるが、もしそうであるならもっと自然と共生する必要があり、後者は形而上学や宗教で云われることであり、そうであるならば尚更に人間は自然を大切に育てていかななくてはならない義務があるはずである。どちらにしても人間の都合のよいように利用してきたことは確かであり、今やその付けが回って来たといえる。

我々が空堀川に清流を取り戻そうという活動は地球全体から見れば本当に小さなことかも知れないが、環境問題には「Think globally, act locally」(地球を思うならば、地域で活動せよ!)という言葉がある通り、身近な川をしっかりと守っていききたいものである。



## トリとめのない鳥の話③

喜多見 孝 明

子供の時に口ずさんだ歌の中に、たしか、「♪おお寒、こ寒、山から小僧が飛んできた～♪な～んと言って飛んできた～♪」というのがあったと思うのですが、……実はこのあとの言葉が私の記憶の中に残っていないのです。何と云って飛んできたのか知っている方がおりましたら今度教えて下さい。お願い致します……。

というわけで、察しのよい皆さんにはもうお解りかと思いますが、今回は、空堀川へ飛んできたカモガ、いったい何と云って飛んできたかを推し量りながら冬鳥についてお話をさせていただきます。

前回のとき「その冬、初めてその姿を目にした日のことを“初認日”という」と書きましたが、今年初めて空堀川で冬鳥の「コガモ」を認めしたのは、過去3年間で一番遅い、9月29日でした。(清瀬市前原橋付近)

一般に、冬鳥が渡りをするのは、北のシベリアや中国大陸が冬期、雪や氷にとざされ、餌となる食べ物が採りにくくなるからとされています。では、どうして方角を定めて目的地へ着けるのかというと、これも推測なのですが、太陽の位置や星座の位置を目印に、またそれと同時に、風向きや気流などをたよりに目的地へのルートを決めて飛んでくる。とされています。そして日本へたどり着いたあとは、地上の地形を目で確かめながら風に乗って目的地へ飛んでいくのではないかと考えられています……。

話をもとにもどしますが、今年もまずは前記した日に2羽姿を見せ、これまた例年のことですが、そのあと10日くらい相前後して、まとまった数のカモガやってきました。なぜまとまって一緒に来ないのかと言うと、たぶん、今年の川の様子を偵察するために渡ってきた“先乗りガモ”が、当節はやりの携帯電話なんぞ持ち出して「今年の空堀川は水量が豊富で……。」「今年の空堀川は釣り人が多くて……。」などと後発のカモたちに川の状況を知らせるからではないかと………思っているのですが………いかがなものでしょうか？………。

ちなみに、「コガモ」の第二陣としては、大陸からの高気圧が張り出し、朝の冷え込みが秋本番を思わせる10月11日に、前記した前原橋付近に8羽、東村山市の曙橋付近に18羽、その姿が確認されました。またこの日、「オナガガモ」という名のカモガ3羽、前原橋付近で初めて確認されました。

さて、これから秋の深まりとともに、冬鳥のカモガつぎつぎと空堀川にやってきましたが、それらカモたちにとって今年の空堀川はどのように受け止められるのでしょうか……。「♪おお寒、こ寒、北からカモが飛んできた～♪な～んと言って飛んできた～♪、「♪空堀川も結構きれいになってきたナー。」と言って飛んできた♪」と歌えるようであれば……ほんとうにうれしいですけどね………。



## インフォメーション

### ◆野火止用水の環境調査実施

当会では都自然保護課の許可を受けて下水処理水が環境用水として河川水量の維持用水になるのか、水質、魚の繁殖状況、底生生物（水生昆虫等）等について一年間にわたり調査をしています。第2回11月12、13日、第3回11月25、26日渡辺先生の指導のもと利カガッ・環境化学課の学生も交え行いました。

### ◆菜の花ツアーへのお誘い！

菜の花の咲き乱れる下北半島・横浜町へのツアーを計画しています。横浜町を挙げて歓迎してくれます。宿舎は町営ロジ・民宿を用意してくれます。

横浜町は菜の花の作付け面積日本一と新鮮な魚介類で有名です。特にホタテ貝なまこは特産品です。勿論菜種油、菜の花蜂蜜、菜の花グッズが盛り沢山あります。5月の中旬が見頃です。募集人員50名程度。交通機関等は現在検討中です。

費用については次号でお知らせします  
何方でも参加を歓迎いたします。

連絡・問い合わせ 042-391-4003 小林迄

### ◆川づくり市民連絡会・市民フォーラム 開催

今後の川づくりに市民参加のあり方について。既に行われている河川の事例報告があり、建設省の考え方東京都河川部の「流域連絡会の設置について（案）」が話題になり、市民が参加するには誰が市民なのか、が話し合われました。

◆NPO法案について意見聴取を行っています。まだハガキを出していない方は是非投函して下さい。お願いします。

◆BTCV（イギリスのボランティア団体）の活動報告と意見交歓会が11月24日日本財団10階ホールで行われました。BTCVの活動内容、仕組み、指導者育成、財政等にわたって国際部長（女性）から詳しく報告があり、その後に質問が寄せられました。6時からの交歓会は7ルールも入り楽しいものでした。当会からは小林、正路の二名が参加しました。

### ◆青葉町商店会の街起こしフォーラム

11月26日下堀自治会館で関東学院大学渡辺研究室の渡辺先生と大学院生2名による青葉町の活性化のためのモデル図、空堀川を活かしたパネルの説明がありました。事前の実地調査も行われており、商店会の方々の熱心な質問もあり盛況でした。先ず一步、一方通行から実施に移したらと思いました。当会からは4名が参加しました。

◆菜の花日本一、青森県横浜町の町長さんと歓談会が行われました。東京ドームで12月4,5,6日に行われた青森県フェアの初日終了後、菜の花交流の第一歩として杉山町長自ら東村山まで足を運ばれました。参加者は当会はもとより青葉町商店会、下堀自治会、市議、商工会、青年会議所の方々が出席、市からは常麻氏、沢田政策室長も参加され「街おこし」について熱のこもった話し合いが行われました。来年の4月には横浜町から空堀川の菜の花を見に、5月には菜の花のツリタテで敷きつめられた横浜町を皆で訪問する話しになりました。コディネイトは当会会長小林が担当します。沢山の人の参加をお待ちしています。40品目を上回る菜の花グッズ、ホタテ貝なまこの掴み取り。



## ◆これまでの経過◆

- ◎11月1,2,3 日文化祭 中央公民館・美術工芸室で行った。参観者710名、アンケートの回答 148通。内容は次号に掲載する予定です。
- ◎11月5日 みずと緑の市民懇談会、於：市西庁舎。市民環境団体と緑と公園課有志。北川復元プランについてかっぱの会より説明あり。
- ◎11月7日 空堀川流域の植栽。苗木50本 枯れた所の補植が主体
- ◎11月14日 定例会開催、中央公民館第4集会室
- ◎11月15日 第4回空堀川列ノアツプを行った。他の団体の人達や釣り人も自主的に参加された、との報告あり、大きく波紋が広がっていることは喜ばしいことです。
- ◎11月18日 川づくり市民連絡会。飯田橋セトラマガサ10F。市民団体・建設省・東京都河川部他。
- ◎11月24日 BTCVとの意見交換会於：日本財団10Fホール
- ◎11月26日 青葉町まちづくり研究会主催・街おこしフォーラム。関東学院大学都市設計専門の渡辺研究室グループのモデル案の説明。
- ◎12月3日 青森県横浜町杉山町長他来東、街おこしについて歓談。
- ◎12月6日 空堀川冬鳥の歓迎会。清瀬市内の石田橋から新空堀橋まで
- ◎12月8日 北多摩上流下水処理場見学、清流復活用水の出来るまで。

ご寄付ありがとうございました  
 正路妙子さん、広田耕子さん、  
 石原 尚さん、西巻治子さん、小  
 泉さんからご寄付を頂きました。  
 大切に使用させて頂きます。

## 会員募集中

「空堀川に清流を取り戻す会」では会員を募集しています。現在、河川工事が進行中です。この改修に「多自然型川づくり」を私達は望んでいます。フェンスのない緩傾斜の自然な護岸、人が集まり憩うことの出来る水辺、沢山の魚が泳ぎ、釣りの楽しめる川づくりをめざしています。建設省も東京都も河川改修にあたっては前述のような河川環境を造っていくといっていますしかし、空堀川の改修の基本的な姿勢は治水にあります。工事のやり直しは出来ません。環境破壊の進んだ空堀川に「故郷の川」を造っていくにはまだまだ多くの人の力が必要です。良い環境は良い子を育みます。そして人の心をなごませてくれます。今が大切な機会なのです。どうぞよい川づくりの為に力を貸してください。主旨に賛同していただける方も賛助会員としてご協力下さい。会報を送ります。会報は隔月に発行しています。

皆さんの川に対する想いを投稿して下さい。お待ちしております。

◎会費は次の通りです。

個人会員（賛助会員とも）	年会費 2,000円
企業会員（団体会員）	年会費 10,000円

◎申込み先

東村山市美住町1-13-14  
 小林まで TEL/FAX 042-391-4003

◎会費振込先

郵便振替口座 がたろう  
 口座番号No 00130-3-729803



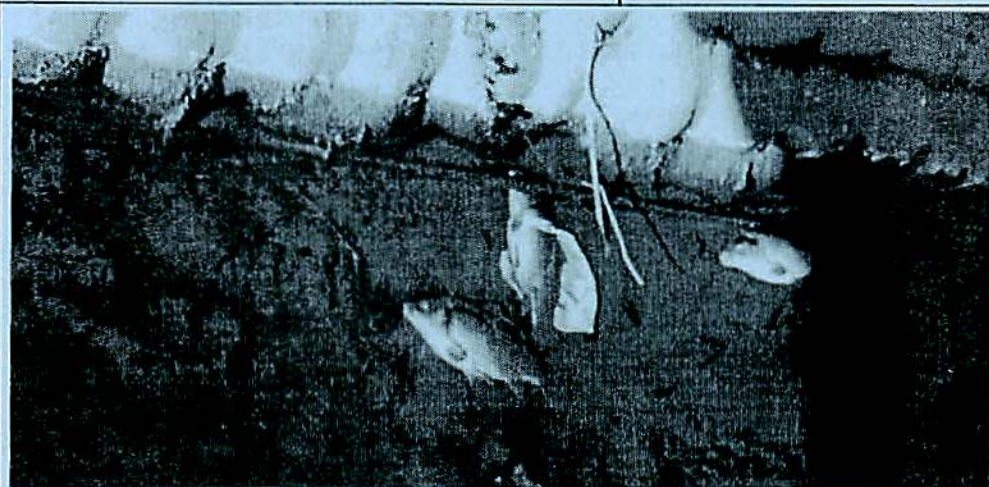
空堀川に清流を取り戻す会

## がたろう通信

発行 東村山市美住町 1-13-14  
 小林寛治 042-391-4003  
 発行日：1999年3月3日

## からぼり川

第14号



## 空堀川の異変!!

一月九日～十日に発生した魚の大量死は、空堀川の水が安全でなかったことを証明してしまいました。つい最近までワースト1の川であり魚や生物が生息していなかったことが水質の汚濁に気がつかなかったのかもしれない。この度は魚の死によって警告されました。本来、川の水は山から流れ出し流域からの水を集め流れ下るに従って大きな流れになり、やがて海に注ぐものと考えていました。水は人にとっては飲み水となり、植物を潤し、魚や小動物にとっても命の源であります。

悲しいかな空堀川の場合、上流からの水は極端に少なく九十九％は事業系の排水か生活雑排水です。河川を汚すことは法律によって禁じられています。汚染された水は土壌を汚し、地下水を汚染し、沢山の生命を奪ってしまいます。多くの生命と共存し、豊かな生態系を造る河川には安全な水が流れることが基本であります。今回は魚によってこの基本的なことを教えられました。数千匹の魚や水性昆虫の命を無駄にすることがないように心に留めておかなければならない事件でした。



## 私たちに必要なことは……

正路 妙子

「日本の住宅街はゲットーかスラム街のようだ。」これは、知り合いのドイツ人が日記に記した言葉です。50歳になるのを目前にして初めて、憧れのまのであった「自然の美しい、心情の細やかな民族の国」日本を訪れたときのことで。たまたま私の目に留まったもので、書いた本人としては他人に見せる意図は全くなかったものでした。しかし、後に京都、奈良へと旅程を進めるにつれ、彼は時に怒りの語調を帯びて叫ぶことがありました。「どうしてあなた方日本人はこんなにも美しいものの隣に、あんなに醜いものを並べておけるのか!」と。

東京という都市をあるドイツ人の新聞記者は「Chaos 混沌」と称しています。確かに、げげげしい看板が林立する盛り場はあるけれど、文化的な威厳を備えた中心はなく、野放図に広がった、歴史上例のない巨大都市です。地方都市のほとんどと同じように見えます。

「混沌」と称される、そんな都市の佇まいと符号して、町をゆく若者たちが利己的で無責任に見えるのは偶然といえるのでしょうか? 彼らには、社会的な存在としての人間という意識が欠如しているように思われます。しばらく日本を留守にして帰ってくると、若者たちの歩く、座る、食べるというような基本的な動作、物腰が粗野で品位に欠けることに愕然とするという人がいます。学校、幼稚園で規範を守れない子供たちの勝手な行動も話題になっています。家庭の中で、時と場所をわきまえた立ち居振る舞い、敬語の使い方、食事の作法を教えられる機会を持たずに社会に放たれた人たちは、未曾有の教に達していることでしょう。

カモヤサキがえさをついばんでいる空堀川に、ありとあらゆるゴミが投げ捨てられている光景を目にすると、人々の心の荒廃を感じることはありません。

ヨーロッパを訪れる度ごとに、都市も田園も含めたその風景の美しさに打たれます。風景全体が歴史的な財産として保存され、建物は、内部は私的な空間として用いられても、外部は公共のものと考えられています。都市の中心部には教会、市庁舎など、その都市の権威を象徴する歴史的な建造物が立ち並ぶ広場があり、定期的に市が開かれ、都市住民の生活の中心を成しています。それら威厳のある建造物は無言の内に、威厳のある装いと態度物腰を住民に要求しています。都市の周りには森が広がり、散策しながら思索することのできる道が通っています。思想は、そんな静かな所で育まれていくのです。

一体私たちは何者なのでしょう? 「私的なもの」を肥大化させ、「公共のもの」に敬意をもたない私たちは? キリシタンに改宗するつもりは微塵もないのに、その厳粛なる儀式を商業化して、教会で結婚式を挙げ、クリスマスやヴァレンタイン・デーだというのは浮かれ、恬として恥じることのない私たちは? あらゆるものが規範もなく入り混じり。広がっていくことを許してしまう私たちは? …… 私たちは自らを「限定すること」に取りかかるべきなのではないでしょうか?



## 空堀川の水質浄化は市民の義務

河川の水質をきれいにすることは国民の義務であります。特に行政が公共下水道を設置する目的は、生活環境の整備と、河川の水質浄化によって市民の健康の保持増進することにあります。また、水質汚濁防止法では国民の義務として次のように規定しています。

「何人も公共用水域の水質の保全を図るため、調理くず、廃食油等の処理、洗剤の使用等を適正に行うよう心がけるとともに、国又は地方公共団体による生活排水対策の実施に協力しなければならない。」

（第14条の4 国民の義務）、「生活排水を排出する者は、下水道法その他の法律の規定に基づき生活排水の処理に係る措置を採るべきこととされている場合を除き、公共用水域の水質に対する汚濁の負荷の低減に資する設備の整備に努めなければならない。」（第14条の5 生活排水を排出する者の努力）

空堀川流域には四市の公共下水道がほぼ完備されています。この公共下水道を繋ぐ流域下水道管きょによって汚水は清瀬の処理場に運ばれて処理され、柳瀬川に放流されています。しかし巨額の設備投資をして完備し、はや3年近く経つにもかかわらず、公共下水道への接続は進んでいません。

皆さんが毎日見られるように、まだ多くの下水管から汚濁した水が流れ込んでいます。新しい河道ができ通水されてはいますが、この真新しい河川敷にも未だ数か所生活雑排水が流れこんでいるのです。下水道を使用しない場合、個人の家庭で（月間20㎡の水道を使う場合）年間2万円程度負担が軽くなります。事業系の排水では月に数万円節約できます。年間では大きな金額になります。東村山市の全家庭、事業所が完全に下水道を使った場合、月に1千数百万円、年間に2億円に近い料金が徴収出来るはずですが。市の財政は厳しいというのに何故か見逃されているようです。

事業系の排水は河川に絶対に流してはいけないというわけではありません。河川に放流するには届出をして汚濁物質を取り除き放流することになっています。問題はこれらの義務（設備）を怠っている事業



が1割以上もいるということです。行政にとっても折角の施設が予定通りに稼働せず、また市民の生活環境も目的にそって整備されないということです。

そのうちに下水道料金の値上げとなれば、何処に公平の原則があるのかということが問題になるでしょう。

私たち市民は、空堀川という公共の水面を特定の人達の怠りによる毒物や油・塗料・生活雑排水等によって汚されるのを放置しているのでしょうか。黙認することによって解決はありません。私たち市民の目で監視しながら、汚濁物が流されている下水管を一つずつ潰していくことが大切なことです。

空堀川を汚染から守り、安全な水を確保するために  
北多摩環境保全事務所 水質監視課に TELしましょう

☎ 042-523-3171

#### お知らせ①

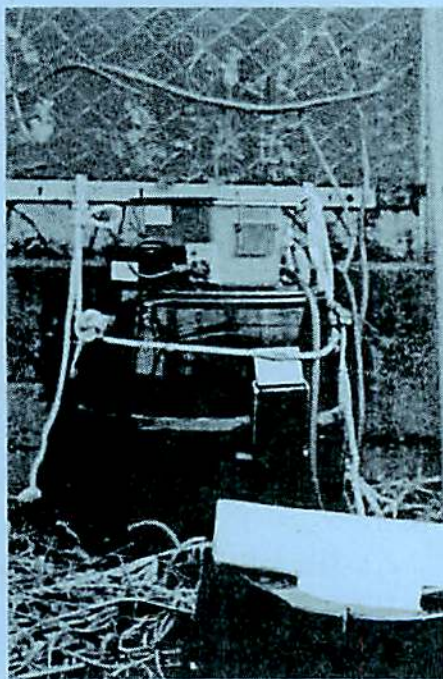
東村山市環境課と私たちは、空堀川のユスリカ駆除対策として薬剤によらず、生態系の中で問題解決を図ろうと魚を放流することになりました。鮎、クチボソを各1,000匹市内各所に放流します。

実施予定日は3月4日です。当分の間は釣りを自粛して下さい。

#### お知らせ②

東京都住宅局では今年も都営住宅の浄化対策として、本町都営住宅から空堀川に排水している流路の清掃を行うことになりました。ヘドロの除去、礫間浄化設備の清掃、流路の拡幅等を行い、空堀川に流出する生活雑排水を出来るだけ浄化すると連絡を受けました。

実施時期は今年度中に行うとのことです。



庚申塚橋下に設置された自動採水装置



## 魚の大量死の顛末

1月10日曜日の午前8時過ぎ、釣り人によって発見された魚の大量死は新聞やテレビで報道されました。多くの人は空堀川にこんな沢山の魚がいたことを初めて知って驚かれたのではないのでしょうか。騒ぎのわりには結末が尻切れトンボになってしまいました。多くの皆さんからその後どうなったのか？との問い合わせがあります。そこで私なりに調査した結果を簡単にご報告いたします。

事件（私には事故とは思えないので、あえて事件といいます）が分かったのは10日の午前でした。その時点では多くの魚は死んでおり、またエラ呼吸しているのも沢山いました。私が事件を知ったのは新聞記者からの連絡があったからです。丁度昼食を食べているときでした。直ぐに浄水場前に行ってみました。ここは日頃魚が多くいる所だからです。大量の魚（主に鯉）が死んでいました。中には未だピクピク動いているのもいましたが流芯に戻しても生き返る様子はありませんでした。殆どがもがき苦しんだのでしょう、水際から陸に身を乗り上げて死んでいました。そして下になっている側のエラ付近から顔が赤くなっていてウロコから血が滲み出ている状態でした。川からは生臭い死臭が漂っていました。昨日までの川と余りにも変わり果てた様相に胸の締めつけられる思いでした。多くの人が死んだ魚を見ているが手にとって裏を返して見た人がいなかったのは残念なことでした。一見してこれは毒物によるものと判断しました。これは私だけでなく現状を見た人すべてがそう思ったのではないのでしょうか。私は直ぐにその毒物の発生元をつきとめようと家内と一緒に川に沿って上流へと足を運びました。

清水大橋付近では東大和市の職員の方数人、奈良橋川との合流点では警察の方1人がpHを測っていました。丸山一の橋では警察の方が3人、水を採取していました。宮前一の橋と丸山一の橋の間では大量のドジョウが死んでいました。ここは両岸は鋼矢板が打ち込まれていますが底は砂なのでコカナダモが繁殖している場所です。先程の鯉と同じく水辺から這い上がり赤く変色して死んでいました。薬物による急性毒死に因るものとはっきり確信できました。更に上手の庚申橋（コツツツ）を見ました。ここからの汚水はかねてから色々な状態の水が流れており、平成8年12月に都多摩環境保全事務所へ水質分析を依頼した場所でもありました。この橋の下でアサギガエシが1匹生きているのを見つけました。更に川沿いに上流に歩いて見ましたら、カルガモがいつもと同じように遊んでおり氷も張っていて、魚の死骸は一つも確認出来ませんでした。これで庚申橋下の下水管からの悪水か、この橋から何等かの毒物が投棄されたのか、どちらかという結論に達しました。原因物が流れた時間は、当時の流速が0.10～0.15m/秒でありこの流速から考えますと、被害の範囲は庚申橋から東村山市内「石橋」ま



での間約 5.5km。流下するのに要する時間は約15時間、発見が8時頃であり、さかのぼると前日の夕方から夜半にかけて毒水が流れたこととなります。流れ下ることによってその量は希釈されます。毒物が少量の場合は被害が一部分になる筈であり、約 5.5kmもの広範囲にわたって全滅に近い被害を及ぼす量は、その濃度にもよりますが10トンの毒水が流されたのではないのでしょうか。人通りもある橋の上からこれだけの毒物を投棄することは難しいでしょう。これらのことから総合して毒水は庚申橋下の被管からのものと考えられました。多摩環境保全事務所にも私の考えを連絡しました。

保全事務所の公式発表では「魚の死は酸欠ではない」「死んだ件と直接結びつく原因は特定出来なかった」「魚が大量に死んだ原因は何らかの有毒物質が川に流されたことは間違いない。今後は流域自治体と連携をはかり、未然防止に努めたい」という調査結果でした。水は流れ去ってしまいます。午後の採水調査では遅すぎたのです。

多摩環境保全事務所では、庚申橋下の被管に自動採水装置を設置しました。また各市の環境部に採水ビンと簡易水質検査器具を何時でも使えるように置き、使い方の講習も実施した、という事でした。

つい最近まで、私は空堀川の水質は相当良くなっていると考えていました。事実、水質検査でも特定の場所を除いて良化していました。

残念なことに水源の殆どが特定事業所や家庭からの排水に頼っている空堀川では、今回のような事件が起こればひとたまりもなく河川に生息している生物が犠牲になります。過去にもこのような例があつたのかもしれませんが。市民が気づかなかつただけではないのでしょうか。

※北多摩北部建設事務所2課が2回にわたって回収処理した被害合計

鯉・鮒	800 ~ 1,000匹 (平均体長 40cm)
ドジョウ	数百匹
重量	約 1,000kg

(小林記)

### お知らせ③

歴史調査部会では予てから「空堀川」はどのような川だったのか調査をしてきました。空堀川に関しての歴史、名前のように水が無かったのか、それともあったのか？現在の川はどんなになっているのか、昔の風景は、流域の人の暮らしは……等昨年から10カ月を掛けて調べてみました。

どうしても、東村山中心になり調査不足ではありますが、輪郭だけは掴めたかと思っております。空堀川の水質、水鳥、管理用道路の植栽等抜けた部分もあります。A4版、110ページ、題名「空堀川」-誰も知らない川の歴史と現状-というサブタイトルを付けました。会員の皆さんにお届けします。ご意見・ご批判をお待ちしています。



## 《菜の花ツアーへのお誘い》

菜の花「日本一」の青森県横浜町へ行きませんか!!

今年の春には空堀川は横浜町の菜の花が満開になります。菜の花から横浜町と交流が出来、昨年暮横浜町杉山町長さんが来られました。

そんなことから皆で横浜町に行ってみようという計画がもちあがりました。菜の花の迷路で遊び、町の人と交流をして、船から帆立貝の養殖を見学し船上でそのサシミを賞味する。お土産にナマコや帆立、カレイ等の海産物を地元の漁業組合から購入。また沢山の菜の花グッズを東村山で販売出来ないか…。秘湯に入り、時間があったら下北半島を巡り三内丸山遺跡を見学して帰ってくる。こんな盛り沢山のツアーを計画しています。行き帰り飛行機を使います。

横浜町は挙げて歓迎してくれる予定です。

募集人員 : 40名以上 (人数が予定に満たない場合は中止します)

日 時 : 5月15～16日(土・日) 1泊2日、飛行機利用

費用 : 未定ですが、40,000円前後になると思います。

参加申込み: 青葉町商店会会長 石黒文夫 043-392-0618

副会長 安藤栄子 043-391-8137

空堀川に清流を取り戻す会(がたろう) 小林寛治 043-391-4003

問い合わせ: 小林までご連絡下さい TEL/FAX 043-391-4003

## 青葉町菜の花祭り

来る4月18日(日)空堀川・下堀橋右岸で“菜の花まつり”を行います。青葉町商店会主催で流域初めての青空市場も開催します。当日私たちは第5回目の空堀川クリーンアップを行います。商店会の方々と交流しながら楽しいお祭りにしたいと考えています。

豚汁・甘酒等のサービスもあります。出来たら青森県横浜町の魚介類・菜の花グッズも販売したいと考えています。ご期待下さい。



## ◆これまでの経過◆

- ◎12月26日 がたろう忘年会  
於：駅前「むらさき」参加10名  
1999年
- ◎1月4日 歴史調査部会開催  
於：市民センター参加者6名
- ◎1月9日 がたろう定例会  
於：中央公民館
- ◎1月26日 11年度改修区間の植栽について北建工事第二課との打合せ都から4名、当会から4名出席、今村組現場事務所で行う。
- ◎2月2日 空堀川新河川への通水、午前10時30分通水
- ◎2月2～4日 旧河道の魚の移し替えと河川環境調査を行う。小林、福島。
- ◎2月4日 歴史調査部会打合せ  
於：小林宅 参加4名
- ◎2月6日 川を知る講座、ふるさと歴史館：講師小倉紀雄先生。当会から4名参加
- ◎2月10日 環境課沢田氏とユスリカ対策について打合せ。小林、福島
- ◎2月11日 歴史調査部会最終打合せ  
於：小林宅 参加4名
- ◎2月13日 がたろう定例会、於て中央公民館第4集会室。10名参加。

メダカが絶滅の恐れのある種に指定されました。

2月18日環境庁はレッドデータブックにメダカやホトケドジョウなど76種を絶滅危惧種に指定し種の保護をしていくことに決めました。メダカは空堀川にはいるともいないとも言われていますが、確認された事実はありません。もし生息していたならば貴重生物として保護していかなければなりません。メダカの情報をお寄せください。

## 会員募集中

「空堀川に清流を取り戻す会」では会員を募集しています。現在、河川工事が進行中です。この改修に「多自然型川づくり」を私達は望んでいます。フェンスのない緩傾斜の自然な護岸、人が集まり憩うことの出来る水辺、沢山の魚が泳ぎ、釣りの楽しめる川づくりをめざしています。建設省も東京都も河川改修にあたっては前述のような河川環境を造っていくといっています。しかし、空堀川の改修の基本的な姿勢は治水にあります。工事のやり直しは出来ません。環境破壊の進んだ空堀川に「故郷の川」を造っていくにはまだまだ多くの人の力が必要です。良い環境は良い子を育みます。そして人の心をなごませてくれます。今が大切な機会なのです。どうぞよい川づくりの為に力を貸してください。主旨に賛同していただける方も賛助会員としてご協力下さい。会報を送ります。会報は隔月に発行しています。

皆さんの川に対する想いを投稿して下さい。お待ちしております。

- ◎会費は次の通りです。  
個人会員（賛助会員とも）  
年会費 2,000円  
企業会員（団体会員）  
年会費 10,000円

- ◎申込み先  
東村山市美住町1-13-14  
小林まで TEL/FAX 042-391-4003

- ◎会費振込先  
郵便振替口座 がたろう  
口座番号No. 00130-3-729803  
(郵送でも結構です)



# からぼり川

第15号

空堀川に清流を取り戻す会

がたろう通信

発行 東村山市美住町 1-13-14  
小林寛治 042-391-4003  
者 発行日：1999年5月20日



通水まつりの行われる第二会場

## 「空堀川通水まつり」

決まる！

五月三十日（日）「通水まつり」を行います。西武新宿線久米川駅付近から新青梅街道・浄水場前までの約九百メートルの区間が十年の歳月をかけてこの三月末にようやく完成しました。

この完成を記念し、また地域の皆さんが川と親しんでもらうためにと東京都北・北建設事務所の呼びかけに応える形でこの催しを計画しました。この行事は市民主体のもので、行政と公益企業、それに私たち環境団体も軸となって参加するという文字どおりのパートナーシップによる実行委員会方式です。おそらく全国でも初めての試みであり、今後のモデルケースになるのではないでしょうか。

この試みが市民の皆さんの支持を得て、来年以降「空堀川川まつり」にと発展していくことを念願しています。私たち「空堀川に清流を取り戻す会」は第二会場（浄水場前の親水広場）で金魚すくい、ザリガニ釣り、魚の掴み取り、その他、真面目な水質検査の実習等いろいろ催しを計画しています。どなたも無料で参加出来ます。





## 新緑の中で

正路 妙子

初々しい緑に包み込まれるように立っている、友人の山の家を訪れました。海拔1200メートル、天気の良い日には雑木林の間から富士山が眺められます。友人は目下、野菜の苗を植えたり、都心から運んだ草花や樹木で花壇をつくったりすることに熱中しています。クヌギの木にかけられた餌台にはキツツキ、アカゲラ、ゴジュウカラといった小鳥たちが、かわるがわるひまわりの種をついばみにやってきます。気温が零下になる冬の気候に対処した気密性の高い家の中には、遠隔操作でコントロールできるお風呂をはじめとした便利な機器類、薪ストーブなど、快適な生活を保障するものが何でも揃っています。

これ以上望むべくもない、静かで美しい風景の中で、沢山の想いが去来しました。

快適さを追求した人間の営みが、生物としての人間を危機的な状況に陥れるという認識が、環境保護の運動の基本です。しかし、それにもかかわらず、多様な生物のつながりが人間の生存を支えているのであって、人間の側の一方的な都合で他の種を絶滅させてはならない、とまで認識されているかということ、必ずしもそうとはいえません。私たちがトキ、イヌワシ、イリオモテヤマネコなどを繁殖させようと懸命になるのは、それらの絶滅が目前に迫っているからです。保護の対象となるのは、あくまでもそのときどきの人間にとって好ましい自然、都合のよい自然であることは避けられません。個体数の多い生物は、雑草、害虫、有害獣として、駆除される運命にあります。

動物生態学の立場から見ると、1平方キロメートルに住むことのできる哺乳類としての人間は1.4人（綿坂邦彦：100億人の地球、農林統計協会、1998）、それに対して、1994年時点で、我が国の1平方キロメートル当たりの人口は330人、世界では46人に達していて、人類は哺乳類としてすでに定員オーバーになっているそうです。

「地球にやさしい」は、本当は「人にやさしい」と言い換えるべきかもしれませんが。人類の生存に適さない状態にまで地球が荒廃した結果滅びるのは、人類であって、地球ではないからです。人類のいなくなった地球は、再び豊かな森に覆われた、美しい星として甦るでしょう。

友人の家の周囲には、シカやキツネ、リスの姿も見られると聞きました。本来彼らの生息地である森の中では、私たちは「住まわせて貰う」立場なのです。雑木林の自然には出来るだけ手を加えないようにして暮らすにはどうしたらよいでしょう？小さな木の家をつくる。燃料としては薪をつかい、次世代のために植林する。照明には太陽エネルギーを利用する……工夫できることはいくつもあるでしょう。しかし、それでも、予測不能な環境への負荷が生じ、都会から持ち込まれた外国産の植物や、餌付けされた野鳥は山の生態系を変え、種のバランスに変更を加えるでしょう。

私たちが当たり前と思っている日常の生活が、他の生物の生存領域を脅かし、絶滅する生物種を増大させているのです。私たちは、地球の生態系についての知識を更に深め、新たな生き方を探ることを迫られています。



## 空堀川の新川について思う

### 問題の多い河川敷の工事

空堀川が「天王橋」上から「浄水橋」まで約900mの間が新しくなりました。この間、10年の歳月がついやされたそうです。工事関係者の皆さんには大変ご苦労さまでした。

時代を反映してか、工事が既に終わっている下流部とは少し違った部分があります。護岸、植栽、河川管理用道路、低水路部分の不浸透工事、河川敷へのアプローチ等沢山の配慮の後が見受けられます。

それだけに残念なことに見えない部分に数多く不満な所が見受けられます。特に河道の工事にはずさんなものがあります。少なくとも5社以上の業者が区間を区切り、橋梁・河川敷・管理用道路・植栽等に係わっています。このためか河川敷の工事には出来不出来の差が目立っています。

### 表土の流出

雨が降り高水敷が洗われ、表土が流失し、締まっていない河川敷に凸凹が現れています。時間の経過と洪水によって益々不統一の河川敷になってしまいます。表土の流された後は建設廃材が醜く露出し正にガレキの山になっています。完成度の低い工事です。

### 出来るだけ早く整備し直す必要があります

空堀川は傾斜のキツイ渓流型河川です。河川工事はこれら河川の歴史的な背景を全く考えていない設計になっていると言われても仕方がないでしょう。礫層の上を流れていることを考えれば、高水敷は少しの増水によっても流されない玉石か砂利で覆うべきであったと思います。

2月の通水から現在までどれだけ土砂が流れたか、「野口橋」下の状況また「第三天王橋」下の釣り場が埋まってしまった事でも明らかです。

### 洗掘

低水路部分の工事にも問題があります。低水路は粘土質で固められ、水が浸透しないように配慮がされていますが、柔らかい部分が洪水の度に洗掘され、深くなったり広がったりしています。一番悪いのは河道の全面に流れが広がっていることです。(広がって流れることは悪いことではないのですが、高水敷を住民に開放し、人が集まり水と親しむためには、設計通りに高水敷を自由に行き来出来ないことは頂けません。)

この現象は、河川勾配に気配りがないためか、低水路を固めた材質によるものか、または工事の仕方(低水路の固め方)のいずれかによるものと思われます。洗掘によって流された土砂は下流部で堆積し、溜まった水の圧力により洪水の度に洗掘は上流に向かって進んで行っています。20~30



mmの雨によっても川は一気に増水し、洗掘は10m近く進みます。更に悪いことには、土砂の堆積の影響で低水路部分が他の部分よりも倍以上の広さになって、この傾向が納まらないことにあります。

#### 何の対策も無い環境への配慮

また、この工事には生態系に対する配慮が見えません。例えば水際を石で固めたり、木の杭を打ちこんで洗掘から守ったり、低水路を始めから深くしたり、河川敷内で蛇行をさせたりする考えは全く採られていません。

水は川の流に任せる、瀬や淵や蛇行等は自然が造りだすものとの考えで河川は造られています。しかし河川勾配のきつい空堀川にはこの考え方はあてはまらないのです。

一見、素晴らしい見える川の流れや河川敷にも多くの生命が宿っていますし、また豊かな生命感の溢れる河川空間であるべきです。治水だけしか考えていない河川工事のあり方には、河川法が改正されて既に3年近く経過している現在、これで良いのかという感じがしています。

人と自然、そして多くの生物との共生を考えるべき時が既に来ているのです。

#### 通水の障害にしかない飛び石

低水路に飛び石のようなものがあります。浄水橋下の自然石による飛び石以外は全く川を知らない人が設計したものと思われます。

重要なことは子供たちに利用されていないことです。何のため誰のための飛び石か分からないことにあります。材質もプラスチックのようなもので、浮玉を止めているとしか思われません。飛び石も小さく、背が高いため危険さえ感じます。

(文責 小林寛治)

#### お知らせ

「空堀川に清流を取り戻す会」のホームページが出来ました。

アドレスは

[http://village.infoweb.ne.jp  
/~fwnf5802/index.htm](http://village.infoweb.ne.jp/~fwnf5802/index.htm)

Eメールのアドレスは

fwnh3251@mb.infoweb.ne.jp です。ご利用下さい。



## 東京都水循環マスタープラン

福島淑行

昨年(1997)の12月に東京都の水循環マスタープランについての中間発表会があり、私と宮下氏が出席しました。そのときの経過につきましては、2月の定例会で若干報告させて頂きましたが、その後このプランがまとめられ5月1日付の、東京都公報で発表されております。

中間発表会での内容とはほとんど変わっておりませんので、残念ながらその時の具体的な意見は大枠のなかに閉じ込められてしまったようです。

水循環の基本は、ご承知の通り雨が降り、川に流れ、そして海に入り蒸発して再び雨になって降るという一連の自然の循環と、もう一つは川に流れた水を上水道とか、工業用水として使い、それが下水道を通してまた川に流れ込み、海に入るという人為的な水循環があります。

このマスタープランは二つの水循環を効率的に、環境を害することなくいかに有効的に使うかということが、その目的であると思います。その目的を達成するために、東京都は7つの課題と基本目標、またこれに対する17の重点施策を掲げております。大きく分けてそれは「平常時の水循環」と「異常・災害時の水循環」の二つになっております。(詳細は都公報をご覧下さい)

中間発表会で一番問題になったのは水源地の問題でありました。とくに東京の場合は、水道水の大部分を他県の河川水に頼っております。唯一の多摩川の源流地の森林は、大部分は植林による保水力のない杉の木に覆われておりますので、大雨が降ると水は保たれることなく、一挙に川に流れ込んでしまいます。都では源流地の山梨県まで資金を出して森林の保護に当たっているようですが、けっして充分とは云えません。国が管理しているとはいえ、最悪のときには他県の水を頼りにすることはできません。唯一の水源地である奥多摩の森林を保水力のある広葉落葉樹にして守ることを最大の課題にすべきです。

私たちの空堀川にも、常に安定した水量が必要です。それが治水にもつながります。いくら立派な河川敷が完成しても、そこに水が無ければ多自然型の川はできません。宮城県(注)の漁師さんたちが10Kmも離れた山に植林に行ったという話を聞いたことがあります。これは「魚付林」というそうですが、海を豊かにするには安定した、栄養分豊富な川の水が必要だということです。山に木がないとその海には魚もいなくなってしまうのです。このように水の循環は生物全体にとっても最も大切な問題であります。従って、このプランがどのように実行されるかを、我々はしっかりと見守る必要があります。



## — 筋の川

(下安末) 川北 肇

3月20日、松井公民館において「柳瀬川フォーラム」が開かれた。このニュースは本紙で簡潔・的確に報じられていたが、参加者としての感想を述べてみたい。

まず、ニュースで「画期的フォーラム」と報じられていたが全く同感である。私が画期的だと感じた点を二つ挙げてみよう。

## 1. 行政間の協力の姿勢

今回のフォーラムの主催は東京都と埼玉県である。柳瀬川は県境になる場所が多いので当然と言えば当然であるが、今まで県はおるか市町村間においてさえ見られる行政間の縄張り意識の愚かさを感じてきた者にとっては二大行政が同じ場で考え話し合おうという姿勢を見せたことは嬉しい驚きであった。

## 1. 行政と市民の理解

近年、環境にからむ問題では市民の声を聞こうという姿勢が行政側に芽生えつつある。しかし、全国的に見れば未だ芽生えというのが本当のところであろう。今回のように二つの行政と各地の市民が共通の場で理解しあい、今後の活動の出発点にしようという試みはやはり画期的な出来事といってよいであろう。中略。

「空堀川に清流を取り戻す会」の報告には目を見張った。「何故、空堀川というのか」という問いかけから究明が始まった。手に入る限りの文献を調べ上げ、徹底した聞き取り調査をしていくなかで答えを見だし、この川の特質、地質的な点まで調べ上げている。その上で的確な目標を立て、それを確実に実行したのである。行政との協力もうまくいき、かつて汚染度で日本一、二を争った空堀川に菜の花が咲き、魚や鳥が戻ってきた。今、川は蘇りつつある。その科学的な姿勢とそれに基づく実践には本当に教えられるものが多かった。後略

この文章は去る4月12日「日刊新民法」に掲載された川北 肇氏の「柳瀬川フォーラム」の感想をご本人の了解を得て転載しました。当日の報告は当会の田中氏が行いました。





## 第二回総会が開催されました

去る5月8日、「空堀川に清流を取り戻す会」の第2回総会が東村山市市民センターで開催されました。総会出席者24名、委任状による出席者33名、合計57名の出席者がありました。

ここでは昨年度の経過報告、会計報告が了承され、平成11年度の活動計画・予算案、会則の一部を改正する件が審議され、全員の賛成が得られました。ついで新役員の改選が行われました。主な事項についてご報告いたします。

### 記

1. 会員の増強：清流復活には多くの流域市民の参加によるものでなければ目的達成は困難です。また会の運営面でも沢山の人の支援が必要であります。その意味からも目標をたてました。今年度末には150名の会の規模を目標にしました。
1. 川まつりの実施：啓蒙活動の一環として協力援助金を申請していましたが、諸般の理由から駄目になりました。この企画を「空堀川通水まつり」に持ってきて浄水場前の広場で実施することにしました。5月30日です。
1. 市民文化祭への参加：11月5、6、7日に開かれる東村山市市民文化祭に参加する。今年は「水と緑の市民懇談会」のメンバーも入れて、複数の環境団体で行うことにしました。
1. 空堀川に『鯉のぼり』を泳がせよう：青葉町下堀公園、東村山浄水場前の広場に鯉のぼりを泳がせ、空堀川のイメージアップに貢献しよう。
1. がたろう通信の継続発行
1. 「空堀川」－誰も知らない川の歴史と現状－  
加筆訂正しながら改定版を発行していく。
1. イメール インターネット で会の情報公開と、より広いネットワークを形成する。
1. 非営利法人（NPO）取得の準備作業を開始する。  
新しい会のあり方、流域管理を市民の手で行って行こう。  
今までの行政による管理から市民の管理へ。



## ◆これまでの経過◆

- ◎ 3月1日 「空堀川」－誰も知らない歴史と現状－印刷仕上がる。
- ◎ 3月2日 「空堀川」出版打上げ会
- ◎ 3月4日 空堀川に魚を放流する。  
鮒 1,000匹、モツゴ 1,000匹。
- ◎ 3月5日 柳瀬川流域川づくり市民懇談会。小林出席、野塩公民館。
- ◎ 3月10日 せせらぎの散歩道、湧水他の水質調査実施。市・近藤係長がたろう・小林参加。
- ◎ 3月13日 がたろう定例会。映鑑。
- ◎ 3月14日 環境関係グループ懇親会 美住町サウザン参加団体13。
- ◎ 3月16日 川づくり市民連絡会。多摩川センター、小林参加。
- ◎ 3月20日 柳瀬川流域フォーラム。 藤松松鑑、市民の取組み事例発表 当会6名参加、田中(関)報告。
- ◎ 3月27日 美住町サウザン主催 第2回空堀川水辺探検。小林参加
- ◎ 4月8日 水と緑の市民懇談会。小林・田中(関)参加。
- ◎ 4月11日 新河岸川水系連絡会。市中央公民館。小林出席。
- ◎ 4月12日 空堀川通水式の打合せ。市民センター、北・北建・市・道路課・流域町会・商店会・当会も参加。
- ◎ 4月15日 「空堀川通水まつり」実行小委員会。小林出席。
- ◎ 4月17日 柳瀬川流域懇談会。金山公園、柳瀬川を見る。小林参加。
- ◎ 4月18日 第5回空堀川クリーンアップ。参加者18名。雨が降って参加者も少なかった。
- ◎ 4月7日 「空堀川通水まつり」実行委員会。市西庁舎、小林出席。
- ◎ 5月8日 がたろう総会開催。市民センター、出席25、委任状34、計59名出席。

## 会員募集中

「空堀川に清流を取り戻す会」では会員を募集しています。現在、河川工事が進行中です。この改修に「多自然型川づくり」を私達は望んでいます。フェンスのない緩傾斜の自然な護岸、人が集まり憩うことの出来る水辺、沢山の魚が泳ぎ、釣りの楽しめる川づくりをめざしています。建設省も東京都も河川改修にあたっては前述のような河川環境を造っていくといっていますしかし、空堀川の改修の基本的な姿勢は冷水にあります。工事のやり直しは出来ません。環境破壊の進んだ空堀川に「故郷の川」を造っていくにはまだまだ多くの人の力が必要です。良い環境は良い子を育みます。そして人の心をなごませてくれます。今が大切な機会なのです。どうぞよい川づくりのために力を貸して下さい。主旨に賛同していただける方も賛助会員としてご協力下さい。会報を送ります。会報は隔月に発行しています。

皆さんの川に対する想いを投稿して下さい。お待ちしております。

◎会費は次の通りです。

個人会員（賛助会員とも）

年会費 2,000円

企業会員（団体会員）

年会費 10,000円

◎申込み先

東村山市美住町1-13-14

小林まで TEL/FAX 042-391-4003

◎会費振込先

郵便振替口座 がたろう

口座番号 No. 00130-3-729803

（郵送でも結構です）



# からぼり川

## 第16号

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~fwnf5802/index.htm>

E-mail [kankan5@mb.infoweb.ne.jp](mailto:kankan5@mb.infoweb.ne.jp)

空堀川に清流を取り戻す会  
がたろう通信

発 東村山市美住町 1-13-14  
行 小林寛治 042-391-4003  
者 発行日：1999年7月31日



### 盛大だった「通水まつり」

実行委員長の「晴れ男」のせいか好天に恵まれ五月三十日は真夏の太陽が照りつけるなか「麻の実幼稚園」園児の鼓笛隊の行進と地区有志のアワオドリで祭りの幕があきました。中央会場では急速ビール箱とコンパネで造られ、ステージでは都北北建の竹内所長・細淵東村山市長の挨拶の後、三人の人から、かつての水害の思い出話等の後、高校生のストリートダンスや吹奏楽の演奏、はてまた、カラオケまで飛び出し大きな盛り上がりのうちに終わりました。

私たちの会は緩傾斜護岸のある浄水橋前の広場で金魚掬い、スパーポール、ザリガニ釣り、魚の掴み取り、水質測定など参加した人にはマンガの風船をヘリウムガスを詰めながら渡しました。また、環境学習研究会の有志によるスタンブラリーやボダイベインテイングがアチコチで行われました。魚釣りは魚が逃げてしまい釣果はありませんでしたが沢山の子供たちが川の中に入り水と戯れていました。浄水事務所始め環境保全事務所東電、東ガス、郵便局等のご協力感謝致します。





## 自然保護の課題



正路 妙子

“Biotop (ビオトープ)”は19世紀にドイツの生物学者ヘッケルが提唱した言葉です。この語のbio (通常は英語読みでバイオ) はギリシャ語 bios(生命)に由来し, top はlópos (場所)に由来しています。ビオトープとは、「安定した生活環境をもった、動植物の生息空間」とされています。湿地帯、野草地、森林地帯、山岳地帯、渓谷などには、それぞれに適合した動植物の生息空間が自然に形成されています。1927年に英語に入り、biotope になりました。“Ökologie”—ギリシャ語 oikos (家, 家政) とlógos (学問) の合成語—もヘッケルが初めて自分の著書の中で用いたもので、こちらは1902年にecologyとして英語に取り入れられています。日本語では生態学と訳されています。

産業革命の時代に、ドイツでは自然保護への関心が高まり、法的な整備と自然保護団体の活動が始まりました。現在のドイツの環境政策には、次の3つの原則が貫かれています。①予防の原則 (環境汚染の原因となるものをできるだけ発生させない)、②汚染者負担の原則 (汚染物質を発生させた場合には、製造者が責任を持って自己負担によりその除去や防止を図る)、③協力の原則 (環境問題解決のためには行政、産業界、国民が協力して応分の負担を果たす)。

バイエルン州内務省建設局が1987年に刊行した“道と小川のビオトープづくり”では“ビオトープの結合システム”あるいは“生態学上の細胞網”を創り出すことが自然保護の最大の課題とされています。そうすることによって、高密度化した建築物や道路で分断されてしまった動植物の移動が再び可能になり、遺伝学的な能力の多様性が保障されるということです。移動を可能にする“飛び石ビオトープ”や“線状ビオトープ”によって、各ビオトープを相互に結びつけることが考えられています。

道路建設や水利事業に際しては、自然保護上の目標に反するような計画はできる限り避け、それが不可能な場合に初めて、二次的なビオトープによって代償することが定められています。例えば、バイパス道路建設の際に支流化した旧河川敷の河畔林を分断せざるを得なくなったときは、その代償として、すぐ近くに1.8haの湿地の生息空間が新たに用意されました。道路用地となった旧河川敷の植物群落はこの新しい湿地に移植されて、1年後には142種の植物と35種の鳥類が他の動物種とともに確認されているそうです。

“ゴミを捨てることを禁止する。違反者は最高100,000マルク(約65,000円)の科料をもって罰せられるものとする”と書かれた立て札も、茂った草と成長した木々に囲まれるように立っています。

参考文献：バイエルン州内務省建設局編「道と小川のビオトープづくり」(集文社)、加藤雅彦ほか「現代のドイツ」(大修館書店)、K.Ermer ほか(水原渉訳)「環境共生時代の都市計画—ドイツではどう取り組まれているか」(技報堂出版)



## 会長の「環境賞」受賞に思う

田 中 開

6月は全国「環境月間」で、東京都では去る6月3日環境功労者に対し、東京都知事から環境賞個人2名と環境保全局長より功労賞が環境保全活動に貢献された企業や団体に贈られました。

環境賞は中野区の遠藤氏と当会会長小林寛治氏が受賞されました。

小林氏の表彰された理由は

- 地域活動に専念し空堀川の浄化に顕著な功績があった。
- 都営住宅の生活雑排水に対して都住宅局と交渉し、礫間浄化施設を整備した。
- 行政への的確な提言とパイプ役を果たしてきた。

等の理由によるものであります。

4年目を迎えた当会の会長がこのような賞を受けたことは会長のリーダーシップと同時に会の活動が評価されたことであり、喜びと誇りを感じると共に大きな宿題と励ましを受けたことになると思います。

天皇橋～浄水橋間新川の「通水まつり」は流域の自治会・町会、商店会、当会、市・都の行政一体となって盛況裡に終わり、官民共同の大切さを知らされました。

「聞こえますか地球の鼓動、みえますか環境の世紀」が環境の統一テーマであります、人の声を自然の摂理と鼓動を感じながら、行政とのパートナーとして自然と調和した川づくりに取り組むのが私たちの努めであり課題であろうかと考えます。





## 梅雨末期の集中豪雨に思う

梅雨あけ近くなると太平洋高気圧が強まり梅雨前線を刺激し、局地的な雨が降ってきます。今年は特に陽性な梅雨の特徴が現れています。この豪雨によって福岡県や東京都で地下室で人が溺れ死ぬということまで起こっています。

特に地価の高い都市部においては個人住宅をふくめて地下室を造る傾向が住宅着工の2%、50戸に1戸の割合でつくられています。

都市化された東京23区内では地表をコンクリートで固め雨水が地下に浸透しないように地面を覆う(不浸透率)区域が80%以上となっています。雨水が地下に浸透する割合は9.5%ときわめて低く、多摩地域においても、昭和61年から平成3年の10年間で7%、日野市の面積に匹敵する28km<sup>2</sup>の農地が消失しています。(東京都水環境保全計画)

住宅は路面より一段と高い所に建てられ、降った雨は道路に流れ出し雨水溝からは河川に流れだす構造になっています。この雨水溝に1時間雨量100mmを超える雨水が集まれば、もはや許容の範囲は超えてしまいマンホールの蓋は跳ね上がり、逆流して先ず路面が水浸しになります。都市型洪水の典型的な例であります。水は低い所に流れていきます。地下室や地下施設は文字通り低いところにあり、溢れた水は一挙に流れ込み、広くない地下空間はアッという間もなく水で溢れてしまいます。

現在の地下室の構造では、進入してくる水を防ぐ防水板の設置には費用が嵩むため殆どの所では設置されていません。また設置されても効果のほどは分かりません。

近年、時間雨量100mmを越える雨が降ることは稀なことではなくなりました。河川も集中豪雨による雨水の流入を許容するキャパシティを持ってはいません。

今までの効率一辺倒の都市のあり方を見直す時がきているのです。

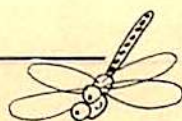
そのためには

- 道路は車道を除き出来るだけ浸透材料を使う。
- 宅地内に降った雨は、雨水浸透ます、貯留、緑化に努め、公共用面に出さないようにする。
- 公共の建物や駐車場はすべて雨水を浸透させる構造にする。
- 公共工事にあたっては工事箇所からは絶対に雨水を他に流出させない工事にする。
- 学校や公共用地、規模の比較的大きな企業地の緑化を義務づける。
- 今までコンクリートで覆われた公共の駐車場や広場はコンクリートを剝がし浸透舗装にする。

人命も大切、緑も大切、地表が息をすることの出来る環境も大切、浸透域を増やさない限り都市洪水は避けられないものと考えます。(小林)



## 水際に柳を植える



7月4日(日)かねてから空堀川の低水路(いつも水が流れている部分)が増水するたびに水際が洗掘され(水によって洗い流される)流れが変わってしまうため、清瀬の柳瀬川調整池からネコ柳の枝を切ってきて、新しくなった河川の水際に植えました。

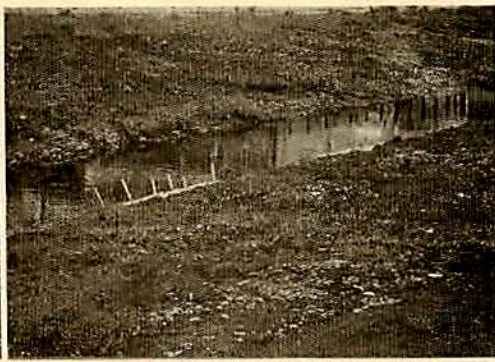
昨年見てきた引地川のデータを参考に、また他の団体や個人から寄せられた柳の植栽事例や写真を参考にして実施しました。

柳の枝(ネコヤナギ)は今年の芽を使わず、去年の枝を15cm程度に切って使いました。本当は6月26日に行う予定で枝を水に浸けて置いたのですが当日は雨模様だったため一週間遅らせました。そのせいか柳はみな新しい白い根を数本も出していました。

植え付けには出水で流されないように、麻のネットでガードをして10cm間隔で植えるようにと情報を得ていましたので、建築用の遮蔽シートを手に入れ、これを1m×2mに切ってバールで穴を開け、間隔を20cmに広げて枝を挿しました。シート1枚に10本の割で、4つ張り付けました。

あいにく、その後の度重なる出水で半分が流されてしまいました。シートの目が細かく、水の抵抗が加わったためだと思います。何度かの試行錯誤を繰り返してうまくいくまでやってみようと考えています。

新しい発見もありました。柳は今年の新しい枝も捨てないでトロボ箱に水を張り、土を半分入れて挿しておいたところ、見事に20本全部りっぱな根が生えました。柳の枝は何処の部分でも十分使えることが分かりました。





## 公開してほしい河川の情報

北北建の通称で親しまれている北多摩北部建設事務所の管理範囲は多摩川水系2河川と、荒川水系の6河川の計8河川です。空堀川は荒川水系の河川に入っています。

東京の河川の中で改修工事をしている所は沢山あることと思いますが、大規模な河川工事は地下河川を除けば空堀川のようなまったく新しい川に生まれ変わる河川はないのではないかと思います。

この河川工事にあたっては多くの方が土地を提供し、生活の場を他に求めて移って行きました。それだけに他の河川の護岸の改修工事や部分的な河川工事とは趣が違ってきます。どんな川に生まれ変わるのか、それぞれの人に愛着と想いがありじっと見つめていることと思います。

河川の改修工事時代、時代の考え方が色濃く現れています。このたび通水まつりの行われた浄水橋から西武新宿線久米川駅付近までの約900mの区間の改修工事には実に10年の歳月がかかっています。この間に河川法の改正もあり、河川環境がアップされてきました。空堀川には平成9年の改正法の考えが反映されてはませんが、それでも既に改修が終わった区間と比べ水辺へのアプローチや植栽には格段の違いが見られます。時代の流れを感じます。

今回の改正の目的となった多自然型川づくりや水質の浄化、魚道の整備などの河道を中心とした河川環境の整備と保全是、望むこと自体に無理であったようです。

これから工事の行われる区間には新たな法律が適用されているのでしょうか、「河川整備計画」が適用されているのでしょうか、旧法の「工事実施基本計画」で行くのでしょうか、少し、説明が欲しいものです。

浄水橋下の緩傾斜の自然堤防と、これから工事が行われる東村山浄水場と新青梅街道に挟まれた全く人家のない区間が下流部分と如何に一体になって整備されるのか注目しています。浄水橋下は唯一魚が生息したおり稚魚が繁殖出来る環境です。1月10日の悪水の流出によって殆どの魚が死滅してしまいました。私たちの努力により最近繁殖を確認している場所です。

公共事業には多額の税金が投入されています。それだけに公に情報を公開することが求められています。(一般的にいうアカウンタビリティ)折角流域市民に働きかけて応募者を募った流域連絡会の立ち上げもまだです。選考方法、人員構成も何時になったら開かれるのか、一向に分かりません。既に江東内部河川では5月に立ち上がっていると聞いています。こんなところにももう少し説明があってもいいのではないのでしょうか忙しいことは分かります。しかし、通水まつりに発揮された北北建の組織力・行動力を多くも人は見えています。私たちも、いい川づくりに微力ながら協力していこうと考えているのです。

(小林)



## 今日の環境問題と都民の役割

石井隆義  
(調布市)

### 今日の環境問題

環境問題をめぐる状況は、市民が主役となって参加していかなければならない段階にはいった、と思います。

大量生産→大量消費→大量廃棄の経済システムの中で暮らしているうちに私たちは先祖がつつかしてきた「もったいない」というものを大切にすする心や習慣をすっかり失ってしまいました。そしてムダを平気でするようになっていきます。しかし、限りある資源やエネルギーを湯水のように使い捨てにする、このような生活を先進国だけが続けていくことは、もはや許されなくなりました。温暖化などの環境問題や資源の枯渇の面から赤信号が点滅するようになったからです。

市民一人ひとりが、自らすすんで、自分とまわりの日常生活の場で、これまでの暮らし方の一つひとつを見直し、ものを大切にする心を復活させ環境調和型の暮らし方に変えていく。いま私たち市民に求められているのはこのことではないでしょうか。

さて、私たち都民は世界第2位の経済大国の、ものにあふれる首都に住み、地球環境を悪化させつつ豊かな暮らしを謳歌してきました。このことを踏まえて、私たちには次のような責任とつとめがあるのではないのでしょうか。

(1)都民のあらゆる生活領域で、どんな小さな工夫でも試みて、これを積み重ねて環境に負荷をかけない暮らし方を他にさきかけて創造していく務め。(2)東京の母なる江戸の社会では、ものを活用しつくす循環システムが見事なほどにはたっていたと言われていいます。このすばらしき歴史と伝統をいまに、あしたに生かし、蘇らせるつとめが私たち都民にある。

(3)幸い、江戸の歴史に代表される「ものを大切にする心と生活方法」を知っている人々が高齢者世代の中にまだ多くいます。その火が消えぬまに、しっかりそれを教えてもらい、引き継いでいくつとめもあると思います。(4)友人のアジア留学生は、東京がダイスキ！と言います。しかし、ムダの多い生活には批判的です。アジアの若人は熱い眼差しと複雑な思いで東京を見ています。アジアの人々に希望を与えるような環境調和型都市にするつとめもあると思います。

環境と調和した暮らし方を、世界の人々が見守る中で、東京が創造していく。これは困難ではあっても楽しい夢です。私は環境モニターとして地域の人々に接していますが、人々の環境に対する関心は高まっています。ある種の胎動を感じます。東京はうごくかも知れません。



## ◆これまでの経過◆

- ◎ 5月13日 水と緑の市民懇談会、市西庁舎。小林・田中出席。
- ◎ 5月17日 「通はつり」に対する当会の取組み方について打合せ。市民センター集会室、7名参加。
- ◎ 5月18日 「通はつり」実行委員会。
- ◎ 5月22日 「通はつり」のための水質調査打合せ。産業能力短大。
- ◎ 5月24日 「通はつり」小委員会。
- ◎ 5月28日 「通はつり」実行委員会。
- ◎ 5月30日 「通はつり」AM10時～ 快晴当会は第2会場を担当。当会会員27名、産能短大生8名、清瀬二中原先生及び生徒15名、青葉町商店会2名、環境学習研究会7名、計60余名の方々の支援を頂きました
- ◎ 6月1日 都環境科学研究所大野氏の要請で空堀川流域を案内する。
- ◎ 6月3日 「環境問題を考える都民の集い」都庁第一本庁舎。小林・渡辺参加。小林「環境賞」を受賞
- ◎ 6月8日 北多摩北部建設事務所訪問。小林・田中・福島の3名。
- ◎ 6月12日 定例会。中央公民館。
- ◎ 6月19日 柳瀬川清瀬調整池でネコ柳の枝を採集する。参加者6名。
- ◎ 7月4日 空堀川新川部分の水際に柳を挿し木する。参加者6名。
- ◎ 7月8日 水と緑の市民懇談会。市西庁舎。小林・田中参加。
- ◎ 7月10日 定例会。中央公民館。

鈴木憲子さんからご寄付を頂きました。有り難うございました。

第16号の発行が遅れました。次回は遅れないように頑張ります。

## 会員募集中

「空堀川に清流を取り戻す会」では会員を募集しています。

空堀川が「故郷の川」として、皆が親しめるようになることを望んでいます。現在進行途中の河川工事においては機会を失ってしまいます。

河川環境の整備は都に残された唯一の広がりを持つ空間であります。

子供たちが安心して自然と親しむ環境を造っていきたくと思っています。

よい川づくりに賛同して頂ける方の参加を求めています。行動は出来ませんが応援するという方は賛助会員としてご協力下さい。会報を送ります。会報は隔月に発行しています。

また、川に対する思い出や環境問題についてのご意見やご感想をお寄せください。

◎会費は次の通りです。

個人会員（賛助会員とも）	年会費 2,000 円
企業会員（団体会員）	年会費 10,000 円

◎申込み先

東村山市美住町1-13-14  
小林まで TEL/FAX 042-391-4003  
E-mail kankan5 @mb.infoweb.ne.jp

◎会費振込先

郵便振替口座 がたろう  
口座番号 NO. 00130-3-729803  
(郵送でも結構です)



# からぼり川

## 第17号

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~fwnf5802/index.htm>

E-mail [kankan5@mb.infoweb.ne.jp](mailto:kankan5@mb.infoweb.ne.jp)

空堀川に清流を取り戻す会

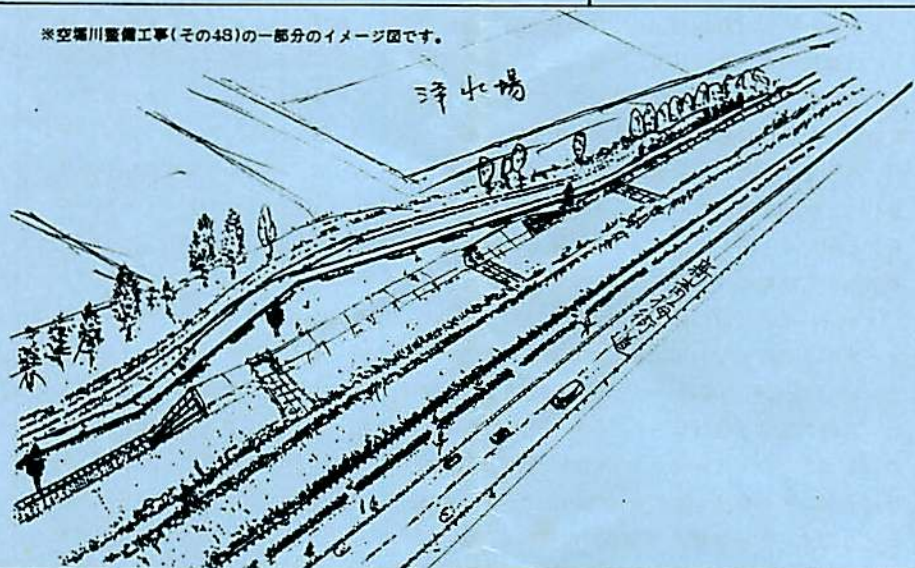
## がたろう通信

発行者 東村山市美住町 1-13-14

小林寛治 042-391-4003

発行日：1999年9月10日

※空堀川整備工事(その48)の一部のイメージ図です。



### 浄水橋上流工事始まる！

— より多自然型川づくりに

天王橋と浄水橋間の盛大な通水まつりにつづいて、浄水橋上流の改修工事が急ピッチに始まりました。これには私たちが常々提案していた植栽については殆ど要望が取り入れられました。この場所の工事は凡そ次のようになる予定です。

一つは、左岸の浄水場前は緩傾斜護岸になり、空堀ひろばを一回り小さくした緑地帯が作られます。二つ目は、右岸の新青梅街道との間に幅広い管理用道路(約五畝)が設けられ、今までと違って公害に強いヤブツバキのフェンスにしたこと、川沿いにはヤマモモ・マユミ・アオダモ等実が成り鳥が喜ぶ樹木が選ばれたことです。また道路沿いには桜を植え、空堀ひろば・浄水場の桜と一体になり緩傾斜護岸から花見が楽しめるようにしたいと北・北事務所では考えているようです。三つ目は、護岸を緑化ブロックにし、親水公園らしくなるということです。



## 成田 —— Trondheim —— 成田

正路 妙子

成田空港でルフトハンザ機への搭乗を待つ間じゅう、かたわらの動く歩道の出口では録音テープがひっきりなしに繰り返していました：“……まもなく終点でございます。お足元にご注意下さい……”と。本を開いても、活字は頭に入ってきませんでした。

\* \* \* \* \*

トロンハイム (Trondheim) に向かう飛行機がオスロを飛び立ってしばらくすると、眼下には濃緑の森、氷河が残した湖、そして森の周辺を黄金色に彩る麦畑がくっきりと見えるようになりました。それは長時間の飛行による疲れも吹き飛ばしてしまうような見事な眺めでした。日本とほぼ同じ広さの国土に、人口 436 万人 (1995 年) のノルウェイ。そのノルウェイ中部、フィヨルドに面した古都トロンハイムには、何よりもまず静寂がありました。何回か乗ったバスも、停留所では静かに止まるだけ。案内は一切ありません。でもご心配なく！旅人は運転手さんに頼んでおくことができますし、前もって町の案内所で、停留所の名前をすべて書いた路線図を貰うこともできます。

トロンハイムの町の中には“オラヴ王”に因んだ記念碑、建物、通りがいくつかあります。まず、北欧文学の中に多くの事績が記録されているオラヴ・トリグヴァソン王によって、10 世紀に町の基礎がつくられ、12 世紀には宗教、文化の面でも重要な町になりました。当時の繁栄を偲ばせるものがあちこちに残っています。さらに、11 世紀に築かれて町のシンボルとなっているニーグロス大聖堂は壮麗な石造りのゴシック建築で、オラヴ・ハラルドソン王を聖人として祀っています。国王の戴冠式は古都のこの大聖堂で執り行われるそうです。木造建築からなるノルウェイの他の都市同様、トロンハイムも何回か大火事に見舞われています。現在残っている建物の多くは 19 世紀のものだそうですが、フィヨルドに通じる河畔に、中世のままの木造の倉庫群が、水中に打ち込まれた木の杭の上に乗って並んでいる光景は、盛んな交易都市トロンハイムを象徴しています。王家の人々がトロンハイムを訪れた際の宮殿として使われている、ロココ様式の黄色い建物は、17 世紀から 18 世紀にかけてトロンハイムの富裕な市民層が競うように建てた家のひとつです。北欧で 2 番目に大きな木造建築といわれています。

歩道に 5 メートルおきに立っている白いボールからつり下がったハンギングポットには、ベチュニア、ナススタチウム、インパチエンスの赤、黄、橙の花がこぼれるように咲いていて、旅人のこころを和ませてくれました。

\* \* \* \* \*

成田に降り立った途端に、また録音テープのシャワーを浴びました。駅で電車を待っていると、電車が近づいたことを知らせるチャイムが鳴り続いた上、さらに“危ないですから白線の内側にお下が下さい……”

私たち日本人は何故幼稚園児のように扱われることに甘んじているのでしょうか？町の中に溢れかえっている音を、何故“暴力”ととらえないのでしょうか？



## 使いづらい雨水浸透助成

東村山市では平成9年度より雨水流出を抑制し、浸水被害の防止を図るとともに地下水の涵養その他自然環境の保全を図るため、「東村山市雨水貯留・浸透施設等設置助成規則」をつくり積極的に利用を促しています。平成9年度は60戸、10年度は140戸の予算全部が消化されました。

この度会員のAさんがこの制度を使ってみました。私も勧めた関係で申請から施工の完了までを振り返ってみました。

前提となるのは、①10万円が助成の限度であること。②施工業者が東村山市指定下水道工事店であること。③東村山市雨水貯留・浸透施設等助成申請書に見積書を添付して下水道課に申請すること等が必要です。

ここでの問題は、○見積りが業者によって大きな差があること。○申請書の作成を業者に頼むとその代金を取られること。サービス精神はないようです。（原則は申請者が書くようになっている）○工事は市の技術指針に基づいているのに見積りに大きな差が出るのは、業者に規則の趣旨と指導が徹底していないのではないかと。○受注業者が工事下請けに任せている例がある。仕事を下請けさせることは問題ないが、施主からみると工事が軽く見られているように感じられる。

施工に当たっての注意すること。

◎普通の家の場合大きな浸透ます(300mm)を4個付けないかぎり、10万円の助成を上回らない。（あくまで標準工事費、250mmますで十分です。

個人負担は無い）と考えてもいいと思います。

◎複数の業者から見積りを取ってみる。

◎申請書は自分で書く。

◎特別な地質、土地条件では工事費が高くなります。何が特別に費用が掛かるのか、詳しく聞くことが必要です。

### 助成金算定表

雨水浸透ます (円)      雨水浸透トレンチ (円)

形状	規格	標準工事費単価	形状	規格	標準工事費単価
250	直径 250mm×深さ500mm	1ます 25,000	100	幅300mm×高さ300mm	1m11,000
300	直径 300mm×深さ550mm	1ます 31,000	150	幅400mm×高さ400mm	1m18,000

最後にこの規則第12条にあるように、雨水浸透施設を設置した者の義務として、保守点検、清掃を定期的に行うことが必要です。

実際、設置している者の経験から浸透施設を5年以上放置しておいた場合、屋根からの灰塵や木の葉、鳥の羽等で浸透ます内の採石が目詰まりを起こし、浸透ますの機能が低下してしまいました。（文責 小林寛治）



## がたろう豆辞典

今回から会員の宮下博文さんが専門的な立場から、河川用語について解説して下さることになりました。以下紙面の許す範囲で掲載していきますので参考にして下さい。

\* \* \*

今回から河川における専門用語をここで再認識出来るよう、この「がたろう通信」の片隅を暫くお借りして、あ行より連載してみようと思います。尚、この欄で出てきた用語についてのご質問をお受けいたします。専門分野が少々異なりますので、質問に対し、その都度勉強し調べますので時間がかかるかもしれませんが、的確なご返事が出来るように努力したいと思います。

宮下博文（東村山市青葉町）

### がたろう豆辞典(1)

—あ—

**あんきょ**（暗渠）：上部を開放しない水路。

**あんきょ排水**：地中にパイプまたはその他の集水施設を設け、地下水の排除を目的とする排水方法。

**洗い堰**（せき）：洗い堰は高さ10m以下の固定堰、川から水を取り入れ、川の流量の調節等のために設けられたもので、水はこの上を流れる。

**浅瀬**：海岸または、河口等で砂礫（されき）の沈積により水深が付近より浅くなった所。

**アーチダム**：アーチ作用により水圧等、諸外力に抵抗するダム。

**圧力管・圧力水路**：管内面から水圧を受ける管・水路内を満水状態で流下する水路をいう。例：水道管。

—い—

**いかだ基礎**：木・竹等で枠を組み、その上に構造物を作った基礎。例：江戸城。なお江戸城は松丸太で枠を組み、その上に石垣擁壁を築き江戸城の基礎とした。

**石積堤**：直立堤体の表面を石積みにし、その内側に粗石を詰めた構造の防波堤である。例：石積み堤防。

**異常洪水量**：計画洪水量を20%増したもの。わが国のみ概念。

**犬走り**：盛土及び切り土で出来た堤防または擁壁において、のり面の安定を保つために作られた水平部分。新青梅街道と西武多摩湖線の交差点付近の盛り土部に見られます。

—う—

**牛類**：牛の角のように2本以上の木で組み玉石河床の河川の水制として用いる。

**ウナギ止め**：透水の浸透経路を長くして洗掘を防ぐため、つば状に作る止水壁。

**雨量**：ある面積の上に降った雨がそのまま面積の上に溜まったものと仮定して、その溜まった深さを通常mmの単位で表したものである。通常雨量計で計る。  
(つづく)



## 空堀川の水質が更に良くなります

東京都公害防止条例が改正され、この平成11年4月1日より排水基準が強化されました。目的は東京湾の富栄養化の防止にあります。従ってこの条例は、東京湾及びこれに流入する公共用水域に汚水を排出する工場にのみ適用されます。

空堀川においては、10月1日より既設工場（下水道法第10条第1項の特例を受けている工場）からの排水に適用されます。

規定は業種区分ごとに6分野に分かれ、それぞれの規制値が定められています。例えば食品製造・飲料・たばこ・飼料製造業の分野においてはトータル窒素（全窒素）が20mg/ℓ、トータルリン（全リン）が3mg/ℓとなります。（排水量500トンをこえる工場に適用）

トータル窒素とは、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、アモニウムイオンと有機体窒素の総量を言います。

トータルリンとは、排水中のリンの総量を言います。

この条例では一日の排水量が50トン未満の工場には適用されません。

10月1日からは空堀川の水質は更に浄化され、今まで発生していた見苦しいアオコやシオグサの発生も相当少なくなってくると思われまます。問題は50トン未満の排水をしている工場と下水道の未接続の家庭排水を改善していくことです。

### 窒素含有量及びリン含有量に係る基準

（単位：mg/ℓ）

工場の業種等区分	通常排水量	窒素含有量	リン含有量
1 食料品製造業、飲料・ たばこ・飼料製造業	500m <sup>3</sup> /日以上	20	3
	500m <sup>3</sup> /日未満	30	6
2 化学工業	500m <sup>3</sup> /日以上	20	1.5
	500m <sup>3</sup> /日未満	20	2
3 鉄鋼業	500m <sup>3</sup> /日以上	20	2
	500m <sup>3</sup> /日未満	20	2
4 金属製品製造業	500m <sup>3</sup> /日以上	25	1.5
	500m <sup>3</sup> /日未満	30	4
5 1から4まで以外の 製造業	500m <sup>3</sup> /日以上	20	2
	500m <sup>3</sup> /日未満	25	4
6 1から5まで以外の 工場	—	40	6



## 夏休み川遊びの会

福島 淑行

去る8月28日(土)に地球市民クラブの主催で市内在住外国人の子供たちを空堀広場に集め川遊びの会が行なわれた。当会もこれに協力し、子供たちに川の生物調査の指導を行なった。

当日は天候にも恵まれ河川水も透視度45cmと空堀川にとっては好条件であり、韓国、中国、イラン人などと日本人を含め国際色豊かな親子連れ50名近くの人が一日川で楽しく遊ぶことが出来た。

午前中は当会員の指導のもとにみんな川に入って生物の採集を行ない、子供たちは喜んで自然のなかに溶け込んで魚や虫を追っていた。1時間位してから採集した魚や虫を持ち寄って、当会の小林会長よりそれぞれの生物についての説明が行なわれた。その中にはコイの稚魚やザリガニ、ドジョウなどが多く、水生生物としてはヒル、サカマキ貝、サホコカゲロウなどが含まれており子供たちはフィールドノートの絵と比較しながら熱心に説明を聞いていた。

最後に会長より「皆さんが川をもっときれいにしてくれれば、もっと多くの生物が住めるようになりますよ」と云われ、子供たちは都会ではあまり味あうことの出来ない自然の恵みを感じてくれたものと思う。

採集した生物から判定すると決してきれいな川とは云えないが、子供たちが川の中でこのように楽しく遊べるようになったことは喜ばしいことである。

これからも空堀川の生物の多様性が進むように祈りながら最後に採集した魚や水生生物を放流した。





## もう一つの源流

8月27日(金) 武蔵村山市「武蔵村山の環境を考える市民の会」藤沢奈子さんの案内で水質調査を兼ねて空堀川の水源である「久保の川」の源流の湧き水を見てきました。この源泉は「滝の入り不動」という不動尊の神水でした。野山北公園の地つづきであるこんもりとした一角がこの「滝の入り不動」の神域になっていて金網のフェンスで囲まれていました。フェンスの脇は公園に続くルートになっていました。

一際高くなってコンクリートで囲まれた所に恭しく水の謂われが書いてあり、岩肌の中からパイプで水が引かれた水が落ちているのがガラスの扉越しに覗けました。このご神水には手が触れないようにガラスの扉には鍵がかかっていました。ご神水はここから十数メートル下の池の上にパイプで導かれていました。ここには杓が置いてあり自由に飲めるようになっています。

実はこの水を飲料水として飲んでいるが大丈夫なのか、と去る6月の荒川水系一斉調査の集計の時、この水を調べてみたところ界面活性剤が検出された、汚れを表すCODも2 mg/Lあった。ということから始まり、MBASが0.5 mg/Lは奇怪しい、空堀川でも一桁少ない。それではこの際、正確に計ってみよう、となったのです。久保の川はここを源流として僅か10センチ程度の流れとなり道路に出る前に暗渠となって誰の目に触れることなく流れ、空堀川の念仏塚橋の下に流れ出ていました。

### 滝の不動の水質

水温	℃	20℃
pH(水素イオン濃度)	mg/L	6.5
COD(化学的酸素要求量)	mg	0
EC(電気伝導度)	ms/α	6



- (注)生活系の排水の影響は、周囲の環境から入ることは考えられません。  
雨水が余り浄化されずに比較的ダイレクトに出てしまうような感じを受けました。  
多数の人がペットボトルを持参して水を汲んで行くようです。私たちの調査は水道法での飲料として適当かどうかの判定は出来ません。





## ◆これまでの経過◆

- ◎ 7月20日 花菖蒲の植えつけを行う  
苗木は市・緑と公園課の提供により、空堀ひろばに約 100本植える。
- ◎ 8月5日 水シンポジウムin東京に参加。小林は特別企画「一緒に創ろう明日の水辺」に活動団体として参加。全体会議に田中、福島、小林参加する。
- ◎ 8月14日 定例会、中央公民館10名出席。
- ◎ 8月28日 地球市民クラブ主催「夏休み川遊びの会」に協力。川の清掃や魚取りの指導、水生生物を取って生物教室を実施した。環境保全局から頂いたフィールドノートを配布した。中には熱心にノートと実際の生物と比較しながら勉強していた子供もいた。当会から6名が協力参加。
- ◎ 9月2日 北・北建訪問、浄水橋上流の工事について話を聞く。

**発見！空堀川にメダカがいた**

8月14日の洪水によって残された水溜まりでメダカが発見されました。空堀川にはいないと思っていたのでビックリしました。標本に取っておこうと思いましたが可哀相だったので放流しました。

**緑化ブロックに何の種を**

蒔いたらいいでしょうか？

浄水橋上流の河川工事には護岸緑化ブロックが使われます。このブロックの中にどんな種を蒔いたら緑の護岸になるでしょうか？皆さん、知恵を貸して下さい。

**会員募集中**

「空堀川に清流を取り戻す会」では会員を募集しています。

空堀川が「故郷の川」として、皆が親しめるようになることを望んでいます。現在進行途中の河川工事においては機会を失ってしまいます。

河川環境の整備は都会に残された唯一の広がりを持つ空間であります。

子供たちが安心して自然と親しむ環境を造っていきたくと思っています。

よい川づくりに賛同して頂ける方の参加を求めています。行動は出来ないが応援するという方は賛助会員としてご協力下さい。会報を送ります。会報は隔月に発行しています。

また、川に対する思い出や環境問題についてのご意見やご感想をお寄せください。

## ◎会費は次の通りです。

- 個人会員（賛助会員とも）  
年会費 2,000 円
- 企業会員（団体会員）  
年会費 10,000 円

## ◎申込み先

東村山市美住町1-13-14  
小林まで TEL/FAX 042-391-4003  
E-mail kankan5@mb.infoweb.ne.jp

## ◎会費振込先

郵便振替口座 がたろう  
口座番号 NO.00130-3-729803  
(郵送でも結構です)



# からぼり川

## 第18号

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~fwnf5802/index.htm>  
E-mail [kankan5@mb.infoweb.ne.jp](mailto:kankan5@mb.infoweb.ne.jp)

空堀川に清流を取り戻す会  
がたろう通信

発行 東村山市美住町 1-13-14  
小林寛治 042-391-4003  
者 発行日：1999年11月10日



### 空堀川が干上がる！

— 放置出来ない生態系の破壊

十月十日、空堀川の東村山市栗木橋から清瀬市野塩橋までの間約八百メートルが干上がり多くの魚や水性生物が死滅してしまいました。長年、空堀川を観察している秋津町の宮野さんの話でも四十年この方川の水が涸れて無くなったのは初めてのことだと言っていました。

空堀川の水漏れが以前から言われていた浸透区間がこれでハッキリしました。

行政は連休のため生活雑排水の流れる量が減ったためでは、とっていますますが、流域下水道の完備によって生活雑排水は既に減っています。原因の主なものとは好天が続き気温が異常に高かったことに起因しているものと考えます。蒸発量が多く、特にこの間は砂礫が堆積し河床が上がっており浮き石が多いため地下に浸透し易くなっているものと考えます。自然現象だけではなく、河川工事による人為的なものもあるので、放置しておくことは出来ません。



## 空堀川の清掃を終えて……

正路 妙子

長い時の流れの中で環境に適応してきた、私たちに身近な在来種の野草は、逞しい生命力をもっています。自然環境の保護・回復のために、それらは大きな力を秘めているかもしれません。

アイスランドやノルウェーで、屋根に野草の生えた木造住宅をいくつも見ました。野外博物館に集められた歴史的建造物、あるいはノルウェーの町の今も使われている住宅などです。モミの木の梁とカバの木の樹皮で屋根を入念に覆い、野原から四角に切り取ってきた芝土をその上に乗せるのだそうです。芝に覆われた野原は、アイスランドの至る所にありました。

北欧で広く行われてきた、このような屋根の葺き方は、当時の人々の生活の知恵を反映したものです。まず、雷で焼かれないようにすることができました。また、戦時の食糧の確保(!)も可能にしました。戦争で都市が包囲されたとき、芝土にカラス麦あるいは大麦の種を蒔いて屋根を牧草地とし、羊を放牧したのです。新鮮な食糧の供給源とするためでした。

(オラウス、マグヌス著、谷口幸男訳：北方民族文化誌、溪水社)

生活上の必要から生まれた北欧のこの知恵が、ヨーロッパでは、生態系の保護・回復を考慮した建築物に使われるようになりました。屋根を土で覆い、野草を生やした住宅がドイツの農村部や都市近郊の住宅地で見かけられます。断熱性が優れているという理由だけではなく、建物を建設することで失われた、緑地を代償するためでもあるのです。

屋根の緑化に加えて、建物全体の緑化、駐車場の緑化、野草地の復活など「灰色(Grau)」に代わって「緑(Grün)」を、「つまり「舗装面」より「地面」を、のキャッチフレーズのもとに、野草の役割が強調されています。

湿潤な温帯に位置するわが国では、事情は当然異なってくるでしょう。ヨーロッパと違って植生が豊かで、荒地の回復力も迅速です。先日の「空堀川の清掃」の時、河岸に様々な野草の小さな芽がいっぱい出ているのに気がつきました。ひと月前に行われた草刈りは、岸辺に生息する小動物たちにとっては破壊的な出来事だったと思われそうですが、日当たりがよくなったことによって恩恵を受けた植物もあったのです。

ふだん人の手の加わることの少ない空堀川の岸辺は、農地や住宅地などではもはや生存のチャンスのなくなった動植物による生態系の回復に適した場所なのです。

空堀川のささやかな緑地を、様々な生物の、より豊かな生息空間に育てていきたいものです。



## 柳瀬川・空堀川流域連絡会「顔合わせ会」行われる

本年4月、武蔵村山市・東大和市・東村山市・清瀬市の各市報によって募集された「柳瀬川・空堀川流域連絡会」委員の初の会合が、去る10月14日午後、北多摩北部建設事務所2階会議室で行われました。

当日の参加者は、行政委員8名、市民委員8名、市民団体委員4名、都関係者4名の計24名でした。北多摩北部建設事務所の竹内所長の挨拶に続き全員がそれぞれ自己紹介の後、流域連絡会の「設置要綱」の主旨説明、「運営要領(案)」の提示があり、次回第一回の連絡会は11月18日に行うことを決めて散会しました。

運営要領(案)の要旨は次のようなものであります。

1. この連絡会は原則公開。
1. 連絡会の開催日は事前に公表する。
1. 連絡会の会議録は原則公開する。ただし、委員の了解のもとに発言は要旨とする。
1. 会議録は、都庁第2庁舎22階「川の何でもコーナー」、北多摩北部建設事務所及び関係4市の関係課に置き誰でも閲覧出来るようにする。
1. 検討課題に関する行政職員、活動団体の代表者で議長が必要と認める者については連絡会に諮って臨時の委員として決定する事が出来る。等です。

連絡会のお知らせは関係四市の市報(1日付け)に掲載されます。

なお、今回の委員の任期は、平成11年10月から13年3月までとなっています。また募集要綱の通り会議出席のための交通費・日当はありません。

四市の連絡会市民委員・団体委員は次の通りです。(敬称略)

武蔵村山市：柳下惇夫  
峰岸芳子  
東大和市： 狩股久志  
長岩佳夫  
東村山市： 小松光昭  
宮下博文  
清瀬市： 神沢志郎  
三木康弘  
空堀川に清流を取り戻す会  
小林寛治  
北川かっぱの会  
宮本善和  
清瀬の自然を守る会  
宮沢とよ美  
柳瀬川流域川づくり市民懇談会  
田所洋一



顔合わせ会 10.14日 北・北建  
にて



## がたろう豆辞典 (2)

宮下博文

— え —

A P : 荒川霊岸島の景水標零位を基準とする高さの基準。基本水準面については別記する。他にTP (東京湾中等潮位を基準とする高さの基準) OP (大阪湾中等潮位) 等がある。

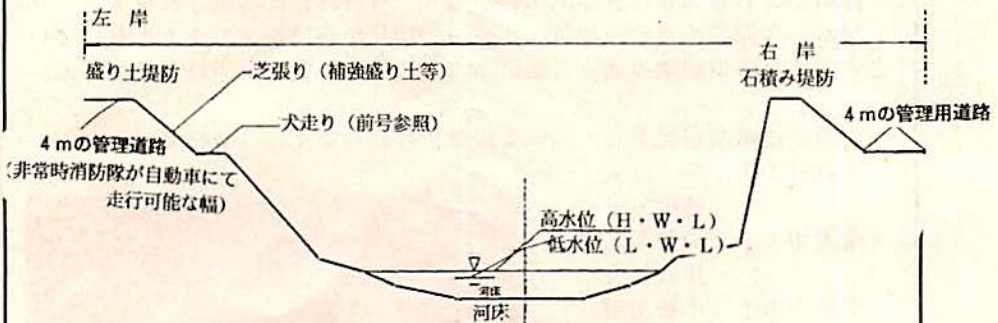
影響圏 : 井戸の影響圏 井戸から水を汲み上げると井戸の水位を一定とし汲に上げる流量を一定と仮定する、とき井戸の周りの水位 (非圧地下水の時) は下がるはずである。しかし、その下がり量は井戸から離れるに従って小さくなり井戸からある距離だけ離れた所で他の地下水に等しくなる、井戸からその地点までの範囲を井戸の影響圏という。

— お —

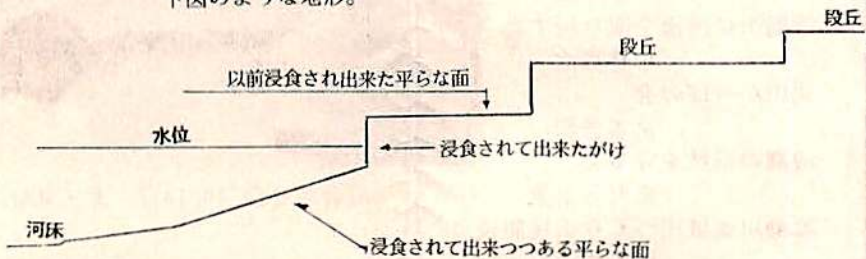
押さえ盛土工法 : 軟弱地盤に盛土をするとき、盛り土本体がその自重で地盤にめり込んで沈下し法尻部付近の地盤が盛り上がってくる。これを防ぐために盛り土本体の両側に土を盛る工法を押さえ盛り土工法という。

— か —

河川断面 : 河川においては上流を背にして下流を見たとき左岸を左岸と呼び右の岸を右岸と呼ぶ。川の断面図は特別な事がない限り川上を背に下流を見た断面となる。



海岸段丘 : 陸地が出来ると、海水に浸食され平らな面ができ、やがて地殻の変動によって陸地が隆起するか、海面が低下することによって出来る下図のような地形。





## 雑 覧

田 中 開

## ◎あらかわ学会の傍聴

荒川水系流域の所管行政や市民団体で例年荒川学会が北区の中央工学校で催され、今年は10月3日、河川土木他8部門で各活動や研究の発表が行われました。

空堀川はまだ本学会には未加入ですが、地域社会部門の中に「行政と市民を結ぶ取り組み」があり、通水まつりで行政と一緒に盛況をおさめただけに、この発表に魅せられ当部門を傍聴しました。発表グループは「戸田の川を考える会」で13年間浄化運動に取り組んでおり、河川行政の現状を市民に報告しようとの企画で、建設省、埼玉県、戸田市各行政を迎えての行政サイドの方針引出しの報告であったため、行政との協同活動発表ではなく一寸淋しい気がしましたが13年のキリには感服しました。なお当部門では8報告、6論文でしたが、来年には私たちもこの場で発表が出来る活動を引続きしたいものだと考えながら会場を後にしました。

◎新河岸川流域フェアへの参加

9月18・19日、所沢市航空公園で、新河岸川流域フェアが開催されました。大きな広場に“川と友だちになろう！川の美しさと大切さ発見コーナー”や総合治水ウィザード展などで河川環境と総合治水を訴える一方、新河岸川がもっとわかる展示には当空堀川をはじめ東久留米、川越、所沢、志木など流域の広範囲からの参加がありました。空堀川からは盛況だった通水まつりの写真をはじめ、クリーンアップ、植栽、魚の放流等活動のパネルと、空堀川に棲む魚の標本を展示しましたところコイ、フナ、モロ、ドジョウのほか、スズビ、マツカ、オイカワ、カマツキなどを見てこんなに沢山の魚がいるのか、これは川がきれいになったのだと大いに関心が寄せられました。





## 第 6 回空堀川クリーンアップ 盛況のうちに終わる

10月31日(日)第6回のクリーンアップを行いました。当日は曇りがちの天気でしたが、次第に晴れ間が広がり、参加者全員快い汗を流しての作業でした。今回は清掃区間を東村山市内全域約5kmに広げ、3区域に分けて実施しました。また今回から集めたゴミは東村山市環境部が受け入れてくれることになり、全てビン、缶、ペットボトル、不燃物、可燃物の5種類に分別しました。

清掃区間が長かったため、上流・中流区間の人たちが終了後本部を設定した下堀橋際「お祭ひろば」に移動して懇親会に参加することが出来なかったこと、収集ゴミの分別に不慣れな点があったこと等が、反省材料として残りました。

ゴミの収集にはダンプカー2台を出して協力してくださった空堀川整備工事連絡協議会3社に感謝いたします。

ここに会の目標としてきた市民団体と市民、地域市民である企業、行政の参加によるパートナーシップの試みが一步踏み出したことに大きな意義があったと評価しています。

当日の参加人員 約136名、収集ゴミの総量 約2トン。





## お知らせ

## ① 環境学習リーダー5期生誕生!

昨年6月より東京都環境保全局の厳しい選考を経て、一年半にわたって環境問題の基礎と実習を行ってきた会員山本慎一さん、小川浩一さんの2名が論文提出を終えてこの9月末にめでたく都知事の修了証を受けました。今後の活躍を期待します。

## ② キャリア誕生

会員の池田さやかさん(農工大)が難しい公務員試験を見事に突破し、上級公務員として北海道開発庁に就職が決まりました。専攻は農業土木。水環境に明るい公務員になれることを期待します。

## ③ 新河岸川水系水質調査報告会の案内

6月に行われた「99年度身近な川の一斉調査」の結果がまとまりました。この場で私たちが行っている水質調査の方法を報告します。

ご承知のように私たちは日本財団の支援金で購入した水質計・分析機器を持っています。JIS規格に則った、より精度の高いデータの収集に、顧問である産業能力開発総合大学の環境化学科・渡辺教授の指導でこの調査を行っています。是非ご参加下さい。

当日は「釣りキチ三平」でお馴染みの漫画家の矢口高雄氏の講演があります。

## 記

1. 期日 11月21日(日)午後1時開場
1. 開場 朝霞市産業文化センター2階
1. 内容 各支流からの報告、解説等
1. 参加費 資料代1人500円

## ④ 苗木の植栽

来る11月27日(土)空堀ひろばで樹木の植栽を行います。ここでは以前植栽したものが枯れています。この枯れ木を主体に交換植樹を行います。

種類は	かるみあ	10本
	アベリア	10本
	べにばなどうだん	10本
	ブルーベリー	5本
	はなかいどう	5本
	なつつばき	5本
	ゆすらうめ	5本

その他本町都営住宅の移転のため残されたさつき、つつじ等を移植したいと考えています。

この苗木は昨年に引き続き東京都環境保全局自然保護部緑化推進室から提供を受けたものです。

多数の人の労力を求めています。空堀川流域の緑化にご協力下さい。

## 日時と場所

11月27日(土)午後1時から  
空堀川浄水橋際 からぼりひろば

## ⑤ 柳瀬川流域フォーラム

## 来年2月5日開催決定

県と東京都の共催で初めて県際河川のフォーラムが行われました。今年は東京都側の清瀬で第2回目のフォーラムが開かれることが決まりました。

柳瀬川の水質調査・水生物等の埼玉県側の調査結果が発表される予定です。場所は清瀬市民センターになりました。

親しみやすいフォーラムにしたいと都環境保全局では考えているようです。楽しみにして下さい。

詳細は次号でお知らせします。



## ◆これまでの経過◆

- ◎ 9月9日 水と緑の市民懇談会。
- ◎ 9月13、14日 空堀川の魚の生息調査。福島、小林。
- ◎ 9月18、19日 新河岸川流域フェア  
於：所沢航空公園
- ◎ 9月21日 川づくり市民連絡会。  
於：杉並公会堂
- ◎ 9月25日 都立職研懇談会。  
於：都畜産試験場
- ◎ 10月2日 美住リサイクルショップ  
登録団体交流会
- ◎ 10月3日 荒川学会に田中参加。
- ◎ 10月6日 水と緑の市民懇談会。  
於：中央公民館
- ◎ 10月8日 森永乳業(株)東京多摩工場  
訪問。斉藤、小林
- ◎ 10月9日 定例会。
- ◎ 10月12日 第3建設事務所訪問。  
前北建小林課長と面談
- ◎ 10月13日 読売記者広瀬氏を空堀川  
断流区間に案内。
- ◎ 10月14日 柳瀬川・空堀川流域連絡  
会顔合わせ会に団体代表  
として小林参加。
- ◎ 10月19日 クリーンアップ打合せの  
ため、北建設事務所を訪  
問。
- ◎ 10月27日 来年の柳瀬川フォーラム  
について都環境保全局、  
風間・加藤氏と打合せ。  
小林、カッパの会宮本、  
柳瀬川流域懇から鈴木氏
- ◎ 10月31日 第6回空堀川クリーンアップ 実  
施。参加者 136名。ハッ  
クアップの基礎づくりに成功
- ◎ 10月 5、6、7日 市民文化祭に参加。  
今回は自然保護団体5団  
体が川・鳥・植物・樹木  
等日頃の活動を展示PR。

空堀川の魚の移動を行いました  
11月8日河川工事によって逃げ場  
 を失った魚を投網、手網、三角網  
 を使って、小林、友保の両名で魚  
 とりを楽しみました。一匹も死ぬ  
 ことなく再放流しました。  
 一つ重要な事が確認できました。  
 それは捕えた稚魚から、春に放流  
 した鮒・もつごが繁殖していた  
 ことが分かったことです。親の魚が  
 全く捕まえる事が出来なかったの  
 は不思議なことです。また、スジ  
 エビが一匹捕れたことも驚きでし  
 た。

ザリガニ	1,	鮒 3~8 cm	201
ドジョウ	6,	モツゴ	3
スジエビ	1,	合計	212

NPO申請が受理されました  
9月24日、当会が申請したNPOの  
 書類が生活文化局において受理さ  
 れました。今は公示期間でありま  
 す。認証決定通知書を受け次第法  
 人としての登記をいたします。

## 子供たちと勉強する

回田小学校からの要請で「総合的  
 な学習」に協力しました。今回は  
 「水のよごれ」「魚」の2グルー  
 プの研究のお手伝いでした。  
 先ず校長室で教育の方針を伺い、  
 ミーティングルームで6年生の生徒と話し  
 合い北川で実習しました。ハクテ  
 スは事前に文化祭に来たため自主  
 的に出来ました。魚についても友  
 保さんのアシトがあり無事2時間  
 の講習を終わりました。(小林)



# からぼり川

## 第19号

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~fwnf5802/index.htm>

E-mail [kankan5@mb.infoweb.ne.jp](mailto:kankan5@mb.infoweb.ne.jp)

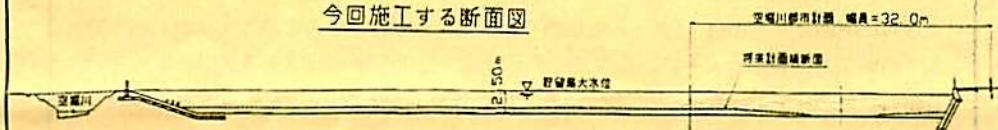
空堀川に清流を取り戻す会  
がたろう通信

発 東村山市美住町 1-13-14  
行 小林寛治 042-391-4003  
者 発行日：2000年1月10日

### 調整池 整備の概略図



今回施工する断面図



### 注目に値する「洪水調整池」が市境に！

空堀川・西武多摩湖線上流部の治水対策として、東村山市と東大和市境に上図のような調整池の工事が進行しています。完成予定は3月末となっています。

既存の洪水調整池は全てコンクリートで固められたもので、洪水が起きると、越流し水が溜まる構造になっています。洪水が引いた後はポンプで排水し、調整池は常にカラっぽにしています。

しかしこの場所は、従来型の調整池ではなく、出水時にはゲートから流れ込み水が引く時に反対側のゲートから勾配を利用して自然に引かせる構造になっています。調整池の護岸は土盛りであり、底も自然の土場になるそうです。

調整池はこのようなものが自然であり、本来望ましい姿であると思います。将来は約4000㎡あるこの場が夢のあるビオトープに生かされる可能性もあります。



## “私”なるものを超えて

正路 妙子

戦後建てられたわが国の住宅の平均寿命は、先進国の中では極端に短いといわれています。ほとんどを海外からの輸入に頼っている膨大な木材資源が、短期間の内にゴミと化してしまうような住まいや街がつくられ続けてきました。建設廃棄物は産業廃棄物の最終処分量の約四割を占めているというデータがあります。こうした状況の中で、最近、耐用年数を長くし、エネルギー消費量を少なくすることに配慮した、高気密、高断熱の住宅が開発されるようになりました。良質な家がつくれなくてはならないことはいまでもありません。しかし、そこには“人が快適に暮らせる街をつくらう”という視点は矢張り入っていないようです。

「企業の建物は立派だけれど、住宅や住宅街は非常にみすぼらしいね。この国は経済、技術、工業はきわめて高い水準にあるにもかかわらず、一般国民の生活は貧しいんじゃないか」これは、大統領になる前に来日したエリツィンが、ヘリコプターから東京を眺めたときの印象を率直に語ったものだそうです。

日本の住宅街が“みすぼらしく”見える原因のひとつに、私たちの街でも進行中のいわゆるミニ開発があります。街づくりが利益を追求する民間業者の恣意に委ねられ、最低限必要な規模にまで細分化された土地に、軒を接するような家が建てられていきます。人々の生活がそこで始まると、道路に面したところに洗濯物や寝具が干され、自転車や自動車が公共の場所に放置されることになるでしょう。隣家からの視線を気にしながら、窓を開けることにもなるでしょう。住民同士のトラブルもそれによって生じるかもしれません。住宅がどんなに良質であっても、そのような街に愛着と誇りをもって人々が暮らし続けることができません。

さらに問題となるのは、“私”の敷地内であつたら、どんなものを建てようが、何を置こうが勝手だと考える人々がいることです。“私”が“公”の場にますますはみ出している傾向が見られます。電車の中で着替えをし、化粧をする人たち。駅の階段にすわりこんで食事する人たちさえいます……

人が暮らすのにふさわしい快適な環境は、“公”を優先する視点をもち、全体との調和を考えることによって、はじめて実現可能となります。敷地は\*坪以下に細分化してはならない。住宅は、道路および隣家との距離を\*メートルあけて建てる。通りに面したところに洗濯物を干さないで済むように工夫する。自転車や乳母車をしまいきめるスペースを設ける。通りとの境界は街全体で生垣に統一する……このようなことができれば、時を超えて住み継がれていく美しい街ができるはずです。

ロスアンゼルスに住んでいたある日本人が、千坪の敷地の半分を売却しようと市に申請したとき、却下された理由は、「家というものは、個人の所有物には違いないが、地域住民との調和の中にあるべきで、あなたのしようとしていることはこの地域のゆったりした空間を愛する住民たちに対する裏切り行為である」というものでした。



## 25年後に未来はあるか？

小林 寛 治

明けましておめでとうございます。シニア（千年紀）の年を迎え新たな時代の幕開けとなりました。特に20世紀最後のこの年は私たち市民が環境問題に実のある取組みを如何に実行していけるか、いけないか、大きな試練の年となるのではないのでしょうか？

1900年代は科学文明の飛躍的な発展とともに信じられないような技術の発展が遂げられた時代でした。その結果残されたものが環境問題でした。

もはや、環境問題を先送りすることは出来なくなっています。大げさではなく人類存続の危機にきているからです。私たちは特に感じていないのですが、変化は着実に現れています。地球規模では、**◎人口の爆発的な増加** 昨年、世界人口が60億人を突破しました。25年後には90億、約5割の人口が増えると予想されています。**◎食料不足** 現在でも貧困と飢えに苦しんでいる人達は10億人以上とも言われています。増え続ける人たちの食料の確保は困難と言われています。**◎熱帯雨林・森林の破壊** 食糧の確保のため焼き畑による耕作地の確保、また燃料としての樹木の伐採によって毎年日本の国土の半分に相当する面積の森林が消えています。**◎砂漠化の進行** 放牧や燃料確保のため、砂漠地帯の緑の喪失は乾燥化と砂漠化を進めています。**◎水不足** 今、利用できる地下水や河川の水が減っています。近い将来人類が遭遇するもっとも深刻な環境問題は水資源の枯渇であるといわれています。**◎地球の温暖化** 化石燃料の消費による二酸化炭素や温室効果ガスによって地球規模で温暖化が進んでいます **◎酸性雨** 酸性雨は森林を枯渇させ、湖の魚を死滅させています。**◎絶滅が進行している生物種** 地球規模で進行している環境破壊により多くの生物種が棲所を失い、また過去行った狩猟や採取によって多くの動植物が姿を消してしまいました。**◎恐ろしいオゾン層の破壊** 最近まで、フロンガスが大量に使われてきました。フロンガスはオゾン層を破壊し続けていること、オゾン層が破壊されると、遺伝子を破壊し皮膚ガンや失明、免疫低下によって様々な病気を引き起こす原因になります。農作物の発芽不良、海のプランクトンは減少し、食物連鎖に重要な影響を起こす、と言われています。他にも地球全体では赤信号が発信されています。珊瑚礁やマングローブの林が喪失しています。海洋が汚染されたり、海浜がなくなったり、水産資源が枯渇し小さくなったり、取れなくなってきました。化学的汚染物質も堆積しています。

私たちの身の回りでも緑地や水が減っています。大気の汚れ、有害化学物質も堆積しています。子供たちのアレルギーやアトピーも増えています。忍び寄る汚染を防がなくては、四半世紀を待たずに顕著な変化が現れるのではないかと心配しています。

私たちが生き続けるために、環境基本法第3条では「環境の保全是……生態系が微妙な均衡を保つことによって成り立っており人類存続の基盤である限りある環境が、人間活動による環境への負荷によって損なわれるおそれが生じてきていることにかんがみ……人類の存続の基盤である環境が将来にわたって維持されるように……。」と規定しています。環境の悪化・破壊は全て人の活動によって引き起こされてきた問題なのです。

いい悪いはともかく、私たちは、自分の子供たちや将来の人たちの存続の基盤である環境をいかにして、良好な状態で引き継ぐことが出来るかを真剣に考え、実行することの必要性に迫られています。



## リードタイムと啐啄同時<sup>そったくどうじ</sup>

田 中 開

2000年の暦とともに「がたろう」は新しいスタート台に立つことになる。

それは昨年9月24日、NPO申請が東京都に受理され、新春早々に認証される予定であり、「特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会」になるからである。

1996年8月発足以来、清流復活に地道な活動を続けてきた実績に立って、「清流復活は流域に潤いと豊かな環境をもたらすべく河川環境の保全、整備を通して活動していく」ことになる。

新年を迎えてNPO認証を、私たち活動の孵化とすれば、申請受理から認証までの4か月は孵化期間といえる。

また2000年は来年からの21世紀幕開けへのリードタイムと私は考えている。

リードタイムと聞けば年輩の方は聞き馴れない言葉かもしれませんが、戦時中アメリカで戦闘機は3年、爆撃機で5年、ジェット化された重爆撃機は8年と聞けば、ああ飛行機を設計して製作し、テストパイロットするまでの期間だったと思い出される方が多いと思います。

もともとこのリードタイムは、親鳥が卵を抱いてからそれが孵化して、一羽の雛が殻を破って飛び出すまでの孵化期間からきた言葉とされている。そしてその期間は自然の摂理で変えることが出来ない。

昨年東京都畜産試験場を訪れる機会があったが、会議室に各種鳥の孵化日数が掲示されていた。カナリヤは14日、鶏は21日、あひる、かも、七面鳥は28日、黒鳥は35日等々。孵化期間を短縮できないだけ、鶏は電気孵化器でいっぺんに沢山の卵を孵化させる。

一方、現役の方は、商品を企画してから製品化するまでの期間とか、注文を受けてから納品するまでの期間と言っている。

そして厳しい商戦にうち勝つために、情報武装とオートメ化で、ケイブックス（即時対応）とか、ジャストタイム（適品適時納品）と生産販売一体となって小売店や消費者ニーズに対応している。

さて、私たちはすでにリードタイムの真最中で孵化する日（NPO認証）の時期を待っている。



この感激の孵化の瞬間を「啐啄同時」とか「啐啄の機」と呼ぶが、「啐」とは鶏の卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音であり、「啄」とは親鳥が殻を外から破ろうとする意から来たと言われ、また日本語大辞典によれば、禅宗では「悟りを得ようとする弟子、それを導く師家の教えが絶妙に呼応すること」とあり、この一体感を呼んでいる。私はNPO認証を孵化の日としたが、親鳥（東京都）は4か月の縦覧と審査の結果を経て認証するので、雛である私たちの殻をつつく音はなんであろうか。

それは「空堀川－誰も知らない川の歴史と現状－」の発刊、水質調査都内河川のワースト2から、空堀川のE類型の環境基準BOD、10mg/lをクリアしてD類型の環境基準も上回る水質になってきたこと、クリーンアップや植栽の輪も年々広がり、これら河川環境保全の活動実績を申請内容に盛りこんで、そろそろ殻を破っても良い時機と提出（音）したことはなかろうか。

更に、孵化して巣立ちするまでがこれからの問題である。

先に2000年は21世紀へのリードタイムと言ったが、私たちは活動の実績をつんで社会的に認知される時が巣立ちの時であり、今年中にその時機を迎え、新世紀に備えたいものだ。

社民党の土井たか子委員長はこの「啐啄同時」を政治理念にされていると聞く。

政治家である土井さんは、国民の声を良く聞き、国民と一体となってやっていこうとされている。この信念があればこそ「駄目なものは駄目」のあの強烈な発言と行動力があるのだと私は思っている。

これからの私たちの「啐啄同時」はどうあるべきだろうか。

昨年度は私たちに三つの大きな経験がある。その一つは5月の都・市・流域住民協働による「通水まつり」であり、苦い事例は柳の植栽に伴う一部流域住民の異常な反対意見である。救われるのはクリーンアップの輪が次第に広がり、恒例の春秋に加え、都営美住町第二アパート自治会が毎月第三日曜日に野口橋から浄水橋間のクリーンアップを行うことになり、すでに11月より実施していることである。

これらを考える時、地道な活動は心ある人に共感を呼ぶが、ボランティアは正しいことをしているのだの信念で強行すると反対意見が伴うという教訓である。これらを活かしながら新年度は着実に活動していきたい。



## がたろう豆辞典 (3)

宮下博文

— か —

- かいきよ (開渠)** : 暗渠に対する言葉で、ふたで覆われていない一般の水路のこと。  
転落のおそれのある箇所には柵、扉等の防護施設を設けるか、又は危険である旨の表示をしなければならない。
- 角落とし** : 角落としは、ゲート(水門)の仲間で、二つの互いに会った溝に15~30cmの角材を順次落としこんだ物。水流をせき止め水流を緩速にしたり、水深を深める。現在は主ゲートとしては使わない。  
昭和の初期に作られたプールのゲート等に見られるが、現在は主要構造物には使用されていない。
- 河川維持用水** : 河川には、既存の流水の占有のための必要水量のほか、常時一定の流量以上の水が流れていることが望ましい。その理由としては、都市の下水等の流入による流水の汚濁防止、河口からの塩水の遡上による塩害防止、各取水施設における取水位の確保、竹木の流送、船や筏の通航のための水深維持などの多くのことがあげられる。このようにもっぱら流水の正常な機能の維持目的により確保すべきとされている流水を河川維持用水と呼んでいる。
- 仮排水路** : ダムを建設する場合、ダムの基礎を掘削するには河川の流れを他ルートに通し、ダムの位置をドライにする必要がある場合が多い。このために設けられる水路を仮排水路と言う。この仮排水路はトンネルである場合もあり、開渠である場合もあり、工事中のみ使用される。一般に工費が高く、工期が長引くので施行業者は歓迎しないが、生息する動植物にとっては歓迎される。
- 渴水位** : 当年内を通じ 365日はこれ以下とならない流量に対応する水位を言う
- 幹川** : 河道は一般にただ一本ではなく、多くの枝に分かれている。これらいくつかの流路のうちで水理的に主要なものを幹川あるいは本流と言い、幹川に合流するものを支川あるいは支流、また一つの幹川とその支流及びこれに関係する湖沼を総称して水系と言う。(例えば荒川水系、利根川水系など)
- 完全越流** : 流れが堰を越える時、堰上流の水位に下流の水位が影響しない場合。
- 感潮河川** : 水位及び流速が河口の潮汐の影響を受ける度合いの大きい河川を感潮河川と言う。また水位の影響のある区域を感潮部又は感潮区域と言う。
- 機械化学処理法** : 従来、下水処理は生物の力を利用して行われているが、これは気候や下水の水質等に左右されることが多い。これを物理的科学的方法で処理しようとするもので上水道の急速濾過法のように、前処理として薬品沈殿法を用いてそれを砂で濾過する方法である。この方法の特徴は、①温度・天候及び生物の生育に無関係、②臭気を発生しない、③占有面積が小さい等があるが、機械的操作が容易でないのが欠点である。



## 回田小学校「チャレンジ活動学習」その後

友保 邦 弘

前号で、回田小学校の「チャレンジ活動学習」に、「水のよごれ」と「魚」のグループの臨時講師として協力したことを紹介しましたがその後の研究成果の発表会に招待されました。

6年生約 110名が26のテーマに分かれての自主研究の結果を体育館で発表しました。

テーマの中には「酸性雨」、「リサイクル」、「戦争」、「廃止線」などの多彩な項目があり、このようなテーマで先生方の適確なアドバイスのもとに自由な勉強が出来る日本の子供たちは本当に恵まれていると思いました。

小林会長が担当した「水のよごれ」グループは女子4名で、資料やデータの整理もバッチリ。発表会の役割分担をキッチリと決めて、とても小学生とは思えない様な充実した内容でした。私が担当した「魚」グループは男子3名で内容、発表方法もまざまずの出来でした。もうすこし工夫して適切なアドバイスをすれば良かったと反省しています。

今後このようなチャンスがあれば積極的に参加して成果をあげたいと思っています。



熱心に魚について話をする友保さん



## ◆これまでの経過◆

- ◎11月8日 回田小学校「チャリティ学習」支援。友保、小林出席
- ◎11月18日 柳瀬川・空堀川流域連絡会、第一回会合開催。  
於：北・北建設事務所
- ◎11月21日 身近な川の一斉水質調査結果発表会。於：朝霞市産業文化センター  
友保、小林参加
- ◎11月22日 第4回「水環境を語る会」東京都各部局、市民団体。於：立川合同庁舎  
渡辺、小林参加
- ◎11月24日 回田小学校「チャリティ学習」発表会。友保出席
- ◎11月27日 樹木の植栽。空堀広場を中心に50本を植える。  
参加者9名。
- ◎12月11日 定例会。出席12名。
- ◎12月18日 がたろう忘年会。

11月の定例会は都合により休みました。ご迷惑をお掛けした方がおられましたらお許し下さい。原則として毎月第2土曜日に中央公民館で開いています。部屋はその都度変わります。

2月の定例会は12日第2集会所です。時間は午前10時から12時までです。

空堀川の鳥のこと、水のこと、下水のこと等日頃気になっていることをお話しください。お待ちしております。

## 2000年の空堀川を記録に

残して見ませんか？

空堀川は河川工事によって刻々と変わっていきます。

20世紀最後の川の姿を記録に残し、空堀川らしい写真をカレンダー等にしてみませんか？

好きな方の連絡を…… 小林

東村山市内の小学校6校を訪問して「2002年からの総合的学習」に先生や生徒が環境学習にどんなことを望んでいるのかを調査してみました。

当会の事務局長の福島氏が現在、学習している東京都環境学習リーダー講座の研究テーマとして、「小学校ではどのように考え実行しようとしているか」を校長先生と面接、学年担当の先生、生徒へのアンケートをお願いし、回収した結果から次のような興味あることが分かりました。

「総合的な学習」については東村山市内で1、2校が先進的な教育を既に実施しています。回田小学校の学習の手伝いをしたことは18号と本号掲載の通りであります。

訪問校6校

アンケート回収枚数 303枚

実施した学年 4、5、6年生

子供たちが主に知りたいことは

- ① 緑が減っていること。
- ② 動植物が減っていること。
- ③ リサイクル
- ④ 水の汚れ

Q. もったいないと思ったこと。

A. ①まだ使えるものを捨てること。

A. ②食べ物を残すこと。

Q. ゴミが発生するのは誰のせいかな。

A. 私たちのせい。

先生たちは未だ取組については具体化していないようですが、私たちも会の目的とするところでもあり、協力していきたいと考えています。



# からぼり川

## 第20号

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~fwnf5802/index.htm>

E-mail [kankan5@mb.infoweb.ne.jp](mailto:kankan5@mb.infoweb.ne.jp)

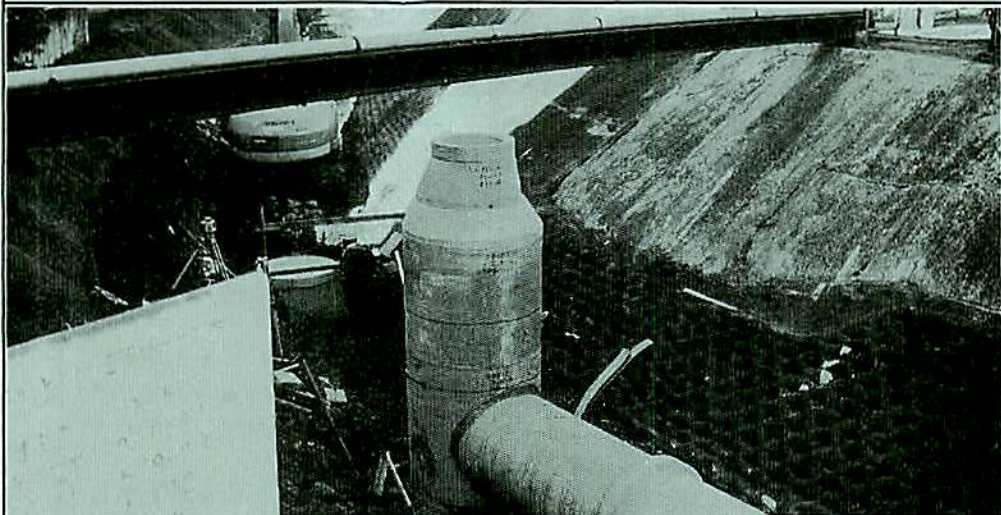
特定非営利活動法人  
空堀川に清流を取り戻す会

## がたろう通信

発 東村山市美住町 1-13-14

行 小林寛治 042-391-4003

者 発行日：2000年3月15日



### 時代に逆行した 旧河道の埋め立て

旧河道の埋め立てが進んでいます。

環境の保全が叫ばれている今日、廃河川を安易に埋め立ててよいものでしょうか？

川として使命が終わった河道の存在価値を地域全体で考えてみるべきではないでしょうか。

横浜市を始め多くの区市では暗渠化されたり埋め立てられている水路を復元し、地域の人たちの憩いと潤いの場に造り替えているのです。

近くでは清瀬市内で、空堀川の廃河川を自然学習園に造り替えています。隣接する小学校生徒の学習の場にすべく、地下水をポンプアップして循環させ、セセラギの散歩道を造りつつあります。今年の八月には完成するそうです。

一方、東村山市内では、旧河道は迷惑施設と考え、汚い・臭い・ごみ捨て場になるからと埋め立てを始めています。

埋め立ては環境破壊そのものです。この際皆で知恵を出し合い地域にとって自慢の出来る旧河道の活用事例を造っていききたいものです。





## 都会の森で

正路 妙子

久しぶりに、明治神宮の森を訪れてみました。この森は、北は北海道から南は台湾に至る各地からの、12万6千本に及ぶ献木によって造られた森です。あらゆる種類の針葉樹、常緑広葉樹、落葉広葉樹が、80年の時を経ていまや鬱蒼と繁り、笹や葛が林床を埋め尽くしています。森の中に入ると、まるで深山幽谷の中にいるような錯覚さえ抱きます。

建築家たちが競って首都に建設した壮大なモニュメントは、歴史的な意義や周辺的环境への影響を考慮することなく、自分たちの“個性”を主張しています。それに対して、都会の中にこの“大なる森”を立案し、実現させた人は、はるか先まで見通して、個人の利益を超えたもの、時代を超えて普遍的な価値を持つもののために人々を動かすリーダーシップを備えていました。いまの東京で、人間が造った本当に価値ある唯一のものといっても過言ではないでしょう。

参道から一步わき道にそれると、静寂が支配しています。この季節、落葉を大地に返したナラ、クヌギ、ケヤキは、大地の恵みと太陽のエネルギーとから、新たな再生を準備しています。物質の循環、死は生の始まりといったことを感じさせる光景です。

森の中に佇み、風の音や木々のざわめきに耳を傾けたり、生き物たちの生態を身近くに眺めていると、それらが生命の法則を教えてください。生きとし生けるものの生と死について考え、自分自身と対話する機会をもつことによって、人は自分なりの哲学に到達していくものです。

文部省が最近まとめた報告によると、日本、韓国、アメリカ、英国、ドイツの5カ国の子供を対象にした調査では、日本の子供たちの、テレビやビデオを見る時間が著しく長いのだそうです。別の調査では、長時間テレビを見ている乳幼児は初めて言葉を発する時期が遅い、発する言葉もマンガやアニメーションから得たものが多いという結果が出ています。

病院の待合室や食堂で、テレビがつけ放しになっていることも珍しくありません。まるでテレビが無条件で“善”であるかのように。

大学生や社会人が電車の中でマンガ本に没頭している光景も、日本に固有の光景です。

“自然を壊し、人工的なもので置き換えていくと、多少なりとも精神的な成長が疎外される”これは“沈黙の春”の著者、レイチェル・カーソンの言葉だそうです。人工的なものを、より自然に近いものに置き換えて行く、それが日本の社会の病理現象を解決していく道ではないでしょうか？





## 東大和市と空堀川

長 岩 佳 男

本誌第19号に掲載の市境調整池の西側に30年前から住んでいます。

当時の空堀川は、普段は水が少ないが、一旦大雨が降った時には、川の上にもう一つの川が走っているという恐ろしい様相でした。ちなみに、この土地は「上砂の台」の地名でした。その後、徐々に改修されていく川は狭い川道をコンクリートの三面張りで、川に降りることも出来ない状態になりました。1992年には、川に面した家屋の立ち退きとともに、“清水大橋”の建設を見、上流の芝中に続いて庚申橋河道内調整池の工事が行われてきましたが、市内下流の改修予定地は雑草の原で、地域住民はいつ始まるか知れない改修工事の展望に不安を持ち続けてきました。

東京都では、前記の市境の調整池は整備工事の一環として暫定的な貯留機能を有する整備工事であること、東大和市が東村山市のような川になるまでは、西武多摩湖線部の改修や空堀川を横断している水道施設の移設などが必要となり、まだ、5年程度の期間を要すると説明しています。

一方、東大和市では、この調整池に隣接する三十九番札所の三光院を含めた立野窪公園を計画しており、東京都と連携して空堀川旧河川敷と一体となった親水公園化を目指しています。

さきに策定された東大和市の「緑の基本計画」や「都市 マスタープラン」においても、空堀川の改修工事に際しては、コンクリート護岸の人が近づけない河川ではなく、人と水と生き物がふれあえる親水空間として、河川の機能に影響しない範囲で自然性回復のための整備と、旧河川敷を親水機能のある公園としての整備を東京都に要請していく旨が示されています。

空堀川に沿って飛ぶ白鷺や水面に寄り添って泳いでいる水鳥を眺めるにつけ、地域の環境を保全するためにも旧河川敷を埋めることなく活用されることを特に願うものです。

幸い、東大和市はこれからの改修工事になります。過日、「柳瀬川・空堀川流域連絡会」で空堀川を視察した折、改修工事区域の先輩である東村山市や清瀬市の皆さんから激励の言葉を頂きましたが、皆さんの貴重な体験を学びつつ、東大和市の将来像である「緑と水の都市づくり」の基盤となる空堀川を、他に誇れるような川にしていきたいと念じております。





## NPO法人格を取得して

小林 寛 治

空堀川に清流を取り戻す会は2月1日付で法人としての登記をすませ、「特定非営利活動法人空堀川に清流を取り戻す会」として再出発いたしました。

### NPO法人とは

地球環境は日増しに悪化しています。水・緑・空気の生物生息の基本的基盤が損なわれてきています。環境保護は世界的な課題となっています。

私たちが本格的に活動するには自立することです。そのためには、法人として社会的に認知された団体になること、と昨年の総会における決議に基づいて法人申請の準備を行ってきました。

NPOは無償の奉仕ではなく、有償のボランティア活動なのです。定款に掲げた目的の範囲で活動を行います。仕事は基本的には行政からの受託ですが、民間の仕事を受託することはなんら支障ありません。

行政の手の届かなくなったサービスや、民間ベースでは引き合わない仕事でも受託し、地域の人達に奉仕します。得た収益の中から会が掲げた独自の地域貢献事業を行います。

NPOはボランティア活動と市民事業をプラスしたもので、事業に参加した社員（会員）には報酬を支払います（これは未だ見通しが付きませんが……）。

### NPO法の目的

特定非営利活動促進法第1条、目的では「この法律は、特定非営利活動を行う団体に法人格を付与すること等により、ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進し、もって公益の増進に寄与することを目的とする。」となっています。

### 特定非営利活動とはどういうものか

法律の第2条では「特定非営利活動」を規定しています。要約しますと、○不特定多数のもの利益の増進に寄与すること。○社員（会員）になろうとする人に不当な条件をつけないこと。○役員のうち報酬を受けるものが役員数の3分の1以下であること。○宗教活動をしなないこと。○政治上の主義を推進したり、支持したり、また反対することを主な活動の目的としないこと。○特定の公職の候補者、若しくは公職に有る者や政党を支持したり、反対する活動を目的としないこと。等が特定非営利活動の条件であります。この条項に基づいて非営利の事業活動を行う法人です。また、法律ではNPO法人の資本金はいらないことになっています。

### 資本金が無い法人の理由

一般に収益を追求する商法上の法人や協同組合等にあるような法人に対する持ち分・議決権の行使を想定していないからです。会員である以上、公平・平等を



原則としているからです。

しかし、資本金が要らないからといって資産がなくてもいい、というわけではありません。資産（資金）が無ければ活動は出来ません。この法人を運営するための運転資金はどうしても必要です。法律の目的は非営利活動を行うことによって運営を賄うことにあります。自立はここから来るのです。従ってこの特定非営利活動を行うための事業計画が一番大切なのです。

### NPOと優遇税制

NPOに対する寄附金控除の問題がとりざたされています。今、税金を納めている多くの方は自分の納めたお金が何処に使われているのか分かっていない人はいないでしょう。寄付したお金が ○空堀川の清流復活のため、○子供たちの健全育成のため、○水と緑豊かな街づくりのため、○社会教育の推進のため等に限定して使われ、確定申告において寄附金が所得から控除されたらどうでしょうか、分かり易い税金の使われ方ではないでしょうか。

NPOは社会的な公益活動を行うのですから公的な支援が行われるのは法律の趣旨から当然という話なのです。

### 会員のための活動を行います

NPO法人「空堀川に清流を取り戻す会」は会員の会費と寄付・事業収益（その他助成金等）によって運営をしています。会にとって一番大切なことは会員へのサービスであり、情報提供と会員の望む活動の方向を見失うことのないようにしなければなりません。今までも会費は会報の発行費用に当ててきましたが、これからも事業計画は皆でつくり、活動内容は常に公開していくつもりです。

### 今後の課題

出来たばかりの法人です。運営に必要なお金が不足しています。自立するには先ず会自身の能力と、行政がどれだけ私たちNPOを理解し、パートナーとして必要とされるかにあります。また私たちもNPOという組織を多くの人に理解してもらい、会員の増強に努め、多様な人材を確保し、かつ提案能力、事業能力を高めるための勉強を重ねていかなければなりません。

環境をテーマとしたNPOが地域の皆さんに浸透するにはまだまだ時間がかかると思います。環境の悪化によって死ぬ危険は感じられないからです。地域において、私たちは時代のさきがけとなり、先輩や後から続くNPOと連携を深めていく必要があります。この法人格の取得を契機に、多くの方が会員として参加され共に活動ができれば、と望んでいます。会員の皆さまのご支援と会員増強に一層のご協力をお願いいたします。

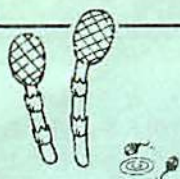
### 設立当初の役員

理事 小林寛治、田中 開、福島淑行、斉藤 隆、渡辺 勇、宮下博文、有川栄子

監事 今井貞一、正路妙子

以上の9名が役員として平成13年3月まで務めます。事務局・会計は福島淑行が担当します。ご意見ご要望をお寄せ下さい。(TEL:042-392-2420)





## がたろう豆辞典 (4)

宮下博文

—か—

**河川の種類及び河川管理者**：河川法における河川は「一級河川」及び「二級河川」である。

(1) 一級河川

一級河川とは、治水上または利水上特に重要な水系で建設大臣が指定したものである。河川管理者は建設大臣であるが、権限及び管理の一部を他の機関に委任している。

①建設省地方建設局長 ②都道府県知事 ③特別区長

(2) 二級河川

二級河川とは、一級河川の存する水系以外の水系に属する河川で、都道府県知事が指定したものである。

河川管理者は都道府県知事であるが、管理の一部を他の機関に委任している場合がある。

①都道府県知事 ②特別区長

(3) 準用河川

この他に河川法を準用した手続き等を要する市町村長が指定した「準用河川」がある。

空堀川、柳瀬川、奈良橋川、残堀川、落合川、黒目川は一級河川であり、東京都知事が建設大臣から委任を受けた河川管理者である。

北川は、準用河川で河川管理者は東村山市長です。

—こ—

**降 雨**：降雨は地表面より蒸発した水蒸気を含んだ空気が上昇気流により気圧の低い上空へ上昇すると体積を増し、断熱ぼうちょうにより冷却されて空気中の水蒸気が凝結して水滴となり地表に落下する現象である。しかし、ひとかたまりの空気が上昇するだけでは雨として降るだけの十分な凝結水量が得られない。雨が降るためには上昇する空気の連続的な流れ、すなわち降雨の成因はなんらかの原因による上昇気流であるが、上昇気流の性格によって降雨は地形性降雨、低気圧性降雨、不安定しゅう雨、収れん気流性降雨、対流性降雨に分類される。

**降雨強度**：ある降雨の強さを表すのに、その降雨継続時間を1時間にとり、各継続時間の強度(雨量)を1時間に換算して、比較しやすくする。すなわちt分でRmm降った雨が、もしその降り方で、1時間続いたら何mmになるかという意味で、何mmをIとおいて

$$\text{降雨強度 } I = \frac{\text{降雨量 } R(\text{mm})}{\text{継続時間 } t(\text{分})} \times 60 \quad \text{となる。}$$

60倍したのは1時間に換算するからである。Iは(mm/時間)で表される。



## お知らせ

### 本町都営住宅の

#### 排水浄化対策、今年も。

今年も本町都営住宅の空堀川への排水路が礫を新たに蛇籠を埋め直し、溜まった汚泥を引き抜く工事が行われます。汚水は少しずつ減っていますが排水基準を大きく上回っています。住宅建替え工事の早期進捗が望まれます。

### クリーンアップを

4月16日に行います

恒例となった空堀川のクリーンアップを来る4月16日(日)に行うことが決まりました。今回はいつもの青葉町下堀橋際「お祭り広場」に加え、浄水橋際「空堀ひろば」と他に拠点を作る予定です。ポスターを川べりに張り出します。多数の参加をお待ちします。

### 「鯉のぼり」を分けてください

今年も「空堀ひろば」に100匹位の鯉のぼりを泳がせたいと思ってます。昨年使用した「鯉」が相当弱って泳げないものが大分あります。どこかに元気な鯉は眠っていないでしょうか。ご提供をお待ちしています。

連絡先: 東村山市美住町 1-13-14

小林まで TEL/FAX:042-391-4003

定例会は、毎月第2土曜日午前10時から中央公民館で開いています。河川の整備に関する事、環境問題に関する事等皆で話し合ってみませんか。

### 柳瀬川流域フォーラム開催

2月5日第2回柳瀬川流域フォーラムが清瀬市文化会館で開かれました。

柳瀬川は埼玉県と東京都の境を流れる河川であり、昨年は埼玉県が主催でしたが今回は東京都主催で行われました。司会は「北川かっぱの会」の事務局長の宮本氏が行い、当会の活動報告は昨年に続き田中氏が「市民活動とNPO」という題で行いました。当日の参加者は92名という盛況でした。

### 柳瀬川・空堀川流域連絡会

第2回の流域連絡会は空堀川・柳瀬川を実際に見ようということで行われました。2月8日、源流部の野山北公園の駐車場に集合し、都が用意したバスで流域四市を見て回りました。各市では建設部長が説明役となられこれからの空堀川・柳瀬川の将来計画を話されました。



### 神澤氏の講演会盛況に終わる

2月19日第8回「水と緑の市民懇談会」主催の勉強会が「ふるさと歴史館」で開かれ、今までにない沢山の人が来られました。演題は「地形・地質から見た東村山」でした。



## ◆これまでの経過◆

(2000. 1～3)

- ◎ 1月8日 今年最初の定例会開催。  
出席12名。中央公民館にて。
- ◎ 1月26日 空堀川・都営本町住宅排水浄化について、北部住宅局加藤氏に対し、本年度も空堀川への排水口に薬用浄化対策を講ずるように要請し、了承された。
- ◎ 1月28日 理事会の準備会を行う。  
基本的な事柄について打合せ。
- ◎ 1月29日 森永乳業(株)東京多摩工場を訪問。活性汚泥による排水の浄化施設を見学。山本氏より詳しい説明を受ける。参加者 小林、斉藤、渡辺。
- ◎ 2月1日 NPO 法人の登記完了
- ◎ 2月2日 空堀川の庚申橋～おなり橋間の8地点の流量測定および水質調査を行った。参加者：友保、小林、田中、福島
- ◎ 2月5日 第2回柳瀬川流域フォーラム開催され、当会の活動について田中氏が報告。(於：清瀬文化館)
- ◎ 2月8日 第2回柳瀬川・空堀川流域連絡会 現地見学会が行われる。源流から柳瀬川・金山公園までを見る。
- ◎ 2月10日 東村山市沢田助役と面会  
NPO 法人として登記したことの報告とパートナーとしての提案を行う。
- ◎ 2月12日 第一回理事会を行う。  
引き続き定例会を開催。出席12名。
- ◎ 2月19日 水と緑の市民懇談会企画  
第8回学習講座開催。「地形・地質からみた東村山の自然」  
講師：神澤 志朗氏(柳瀬川づくり  
市民懇談会幹事) 当会からは9名参加

## 会員募集中

「空堀川に清流を取り戻す会」は、2月1日付けて法人になりました。河川環境の整備は都に残された唯一の広がりを持つ空間であります。子供たちが安心して自然と親しむ環境を作っていきたいと思っています。

## 活動の目標

私たちは環境の保全、街づくりの推進、子供の健全教育、社会教育の推進等を目的としています。

将来は法人として事業活動を行います。参加した社員(会員)には報酬を支払うことを目指しています。

運営に参加してみたいという方を求めています。会の活動を推進するためにやってみたいこと、加えて貴方の趣味などを書いてお申込み下さい。

また、賛助会員として支援していただけの会員も歓迎します。

## 会 費

## 個人会員(賛助会員とも)

入会金(会員) 2,000 円  
年会費 2,000 円

## 法人・団体会員(賛助会員とも)

入会金 10,000 円  
年会費 10,000 円

## 申込み先

東村山市美住町 1-13-14

小林まで TEL/FAX 042-391-4003

◎E-mail kankan5@mb.infoweb.ne.jp

(郵送でも結構です)